

関東氷上郷友会

昭和五十一年四月

第7号

山
ぎ
ろ



文苑





渡辺紙工業株式会社

取締役会長 渡辺金三 取締役社長 岡崎一二郎

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
東京支店工場	東京都足立区中央本町 5 丁目 22 番 12 号 Tel 887—6711(代)
〃 関宿工場	千葉県東葛飾郡関宿町大字台町 2192 番 Tel 0471—96—1489(代)
東京支店営業所	東京都台東区柳橋 2 丁目 15 番 4 号〈関根ビル〉 Tel 861—2331(代)
名古屋支店工場	名古屋市西区又穂町 3 丁目 13 番地 Tel 521—8111(代)
大阪支店 工場	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
九州支店 工場	福岡市博多区堅粕 3—16—14 Tel 411—4237(代)



渡辺製袋株式会社

取締役会長 渡辺泰造 取締役社長 渡辺金三

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
東京支店	東京都台東区柳橋 2 丁目 15 番 4 号〈関根ビル〉 Tel 861—2331(代)
大阪支店	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
藤岡工場	栃木県下都賀郡藤岡町内町 4938 番地 Tel 028262—3321(代)
兵庫工場	兵庫県加古郡稲美町蛸草 1438—1 番地 Tel 079495—0257, 0401



雪の日、柏原・厄除祭の出店——宵は人でうずまる

山に向かえば父がいる

下芝刈りの手を休め

キセルぽんぽん うまそうだ

空にはトンビがビーヒョロロ

たんぽに立てば母がいる

あねさんかぶりの田草とり

腰をのばしてどっこいしょ

稚鯉やドジョウが ご苦労さま

お家にはいれば 婆ちゃんが

晩飯の仕度に大いそがし

味噌汁 たくわん おいしそう

小屋の牛さん ごさいそく

太郎に美代子はムンニャニャ

ひるのケンカはどこへやら

ネズミがチュウチュウ戸棚から

何處に住んでも ふるさとは

きのうのように思い出す

心の隅に生きている

山ざる 第7号 目次

柏原町高見出土の宋代青磁碗	上山 顕	4
黒井城落城の秘密	畑 正義	7
社会は連帯である	有田 喜一	10
丹波人の誇りと感謝	足立 三治	11
山南町の近況報告	前田 朝一	11
お知らせ・長寿者を祝う会		12
ローマの休日	西川 政一	13
アメリカ建国記念行事に舞って	西崎 祥	15
常岡画伯・故宮誘拐記	渡辺 隆男	18
「旅」	常岡 幹彦	21
ペンシルカットの話	伴仲 信次	22
畜産を太洋州に追う	小林 剛	23
鯨を追った夫を憶う	萩野 経子	25
幸せの余生	藤尾ちえ子	26
白子の里の山荘清談		27

手 毬 唄

一で俵踏まえて
二でにつこり笑うて
三で酒造つて
四つ世の中よい様に
五つ泉の湧く様に
六つ無病息災で
七つ何事ない様に
八つ屋敷を求めて
九つここに蔵建てゝ
十でとう／＼納めた



おじゃみ唄

おんさかさかあかさかど
四谷赤坂麴町
街道はつとつと なたとのぼう
籠で行くのはいくらでしよう
五百でしよう
もちとまからにやかちやからだ
ひいふうにみやよ
五つに六つに七八九つ
かえしておしるのさ
ちよと一かん勝ちました



碁の魔力……………	坂上 勝郎……………	28
私の碁と同好会……………	足立 正……………	29
氷上囲碁会報告……………		30
芸術選奨に輝く細見綾子さん……………	植村 章子……………	31
和歌……………	渡辺 久子……………	33
俳句……………	由良洋太郎……………	33
	足立あつ子……………	33
本の紹介『回想と覚書』『東中風土記』……………		34
商店経営初歩必須要項(3)……………	村上 末吉……………	35
お便り・近況……………		37
柏陵同窓会は五月に総会……………		43
表紙画家紹介……………		43
五〇年度総会開く……………		44
五一年初役員会……………		44
会計報告……………		45
会費領収報告……………		46
本会役員……………		46
関東氷上郷友会の沿革／会則……………		47
関東氷上郷友会会員名簿……………		49

羽根撞打唄
ひと目 ふた目 みやがし
よめご いつやの むさし
七屋の薬師 こゝの屋でとめた



子守唄

ねんねの守はどこへ行た
あの山越えて里へ行た
里の土産に何もろた
でん／＼大鼓に鉦の笛
ねんねしたのは赤いべど
起きて泣く子は帯一つ
ねんねした子に赤いべど着せて
連れて参ろうのゝ様へ

ひふみよの嫁さんたちは
赤いおべべが大すぎ
べべちゃん／＼
よんべよばれて来たのは
あさひの吸もん
小鯛のやきもの
一杯おすすろすすろう
三杯おすすろすすろ

柏原町高見出土の宋代青磁碗

上山 顕

(柏原町大新屋)

私の出身は、柏原町大新屋である。

部落の西方氷上町との境に、高見城山がそびえている。少年のころは、ずいぶん高い山に思っていたが、標高四百七十九メートルとある。やせて急峻な尾根が南北に連なり、要害の地であった。後醍醐天皇の嘉暦二年、仁木頼章が最初に築城、その後幾度か城主が代わり、最後は赤井忠家であるが、天正七年明智光秀の將四方田政孝に攻められて落城した。

城址からは焼けた米がいくらかでも出てくるとか、誰れさんが刀の破片を拾ったなど、よく聞かされて育った。

私もこの山へは二度登った経験がある。最初は多分中学生のころ、大新屋部落の側からで、途中まで、路らしい路はなかったように思う。二度目は高等学校時代だろうが、鴨野部落からで、山路ながら、ちゃんとした路であった。頂上では探したに相違ないが、焼けた米さえ拾えなかったように記憶している。

ともかく高見城山は、戦国時代からの城山らしく、きりっとそびえ立ち、おおげさにいえば、富士山が日本の象徴であるごとく、わが部落の象徴であった。戦後二度ばかり大阪から大社行き特急に乗ったこ

とがあるが、柏原駅を通りすぎると直ぐ左手に、懐しいその姿を現わすのが眺められた。

ところで、昨年以上野の国立博物館で「日本出土の中国陶磁」の特別展覧会があり、私が訪れたのは七月に入ってからのある日曜日だった。

日本に伝わる中国の陶磁は、伝世品としても、法隆寺伝来の唐代青磁四耳壺をはじめ数知れずあるが、さらに全国各地出土の遺品は、陶片を含め、北は北海道から南は沖縄県まで、すべての都道府県に分布、その出土量もおびただしい。年代的には奈良時代から近世まで、あらゆる時期の遺跡が含まれている。本展覧会は、出土中国陶磁を全国にわたって集め、これを一堂に展示した最初の試みで、出品件数は約二百五十一件に、陶片の場合は何十点かが一括されていた。

それらのなかには、天津市出土の白磁水注（宋代）や茨城県長岡村出土の白磁蓮牡丹文瓶（宋代）、横浜市出土の青磁鎗文有蓋壺（元代）など、かつて見たことがあり、その美しさの強く印象に残っているものもあったが、大部分はもちろん初見である。特に興味を持ったのは、まず福岡県沖の島出土の唐三彩の破片で、いわゆる宗像神社沖津宮遺宝の一部をなすものである。

中国以外での唐三彩の確実な出土地は、韓国の慶州付近と、この沖の島および奈良県下の三遺跡のみとのことである。わが国には唐三彩の世界的名品も数多く存し、それらは重要文化財に指定されているのがせいぜいであるのに、この陶片が国宝に指定されているのには、正直なところ驚いたが、それだけの歴史的価値があるからであらう。

それから、福山市草戸千軒町遺跡出土品として、青磁劃花文碗（宋代）などの他、宋ないし明代の多数の陶片も陳列されていた。草戸千



軒町遺跡とは、松崎寿和氏の「草戸千軒」によると、現在の福山市の市域を流れる芦田川は、たいへんな暴れ川だったらしく、寛文年間の豪雨で、鎌倉時代の港町・門前町であった草戸千軒町は、一朝にして砂礫の河原と化していたのが、昭和三十六年以後の発掘により、再びその姿を現わしたものである。「日本のボンペイ」とさえ呼ぶ人もあるようだ。そこからの出土品には、多種多様なわが国の中世陶磁の遺品が見られる他、宋代を頂点とし唐代に溯り、元・明代にわたる中国陶磁も、見本市といっているほど、あらゆる種類の遺品が揃っていると聞かされていたが、それらをはじめて見ることができた。

もう一つ、沖縄県読谷村古墓出土の青花雲竜文獸耳壺は、近年著しく研究が進み、世界的に注目されている元代青花の堂々たる姿の完器で、まことに眼を見はらさすものがあった。

このように、いくた関心をそそる品々のなかにあつて、格別に眼を惹き、しばし私を釘付けにしてしまったのが、青磁蓮弁文碗（宋代）の一つで、水上郡柏原町高見出土とされていたからである。何点か並んでいる同種のものに比べても、決して遜色を見ないものであった。

高見といえは、あの高見城山以外は考えられない。前にも触れた高見城の落城については、いろいろと聞かされてきたが、こういうものが出土したとは、私にとっては初耳である。もう少しはつきりしたことを知りたいと考え、本展覧について博物館の担当者であられるのだから、図録に解説を書いておられる長谷部楽南先生を二、三日後にお訪ねして、この碗について、

(一)出土の時と場所。(二)現在の所有者。(三)高見城の落城について話したりえ、火災にあっているかどうか。(四)窯は竜泉窯だろうか。

を伺った。

これに対し長谷部先生は、

(一)出土の時と場所は、博物館ではよくは分らない、はたして城址から出土したかどうかとも疑問である。(二)所有者は兵庫県在住者である。

(三)肌はきれいだから、火には遭っていないと思う。(四)浙江省あたりの窯であろうが、竜泉窯と限定することも困難であろう。

とのことであった。所有者が兵庫県在住者であると聞き、古丹波の蒐集家として知られている安田尚瀝氏の名がふと心に浮かんだ。

その後間もない同じ七月、某デパートで「李朝陶磁と古丹波展」を見たが、それに古丹波の方を出陳していた、篠山の丹波古陶館館長でもある中西尚古堂の当主中西通さんにお目にかかった。右の話をしたところ、城址からの出土も全然考えられないわけでもあるまい、と語られ、最近桂又三郎氏が高見城山に登って陶片を採取されたそうだと伝えてくれた。

たまたま八月早々帰省の機を得た。この碗についてもっと知ることでもできようと、展観の図録も携えた。柏原町役場に中井町長を訪ねたとき話に出すと、そのことなら丹波新聞に載っていましたよ、と見せていただいたのが昭和五十年七月二十七日付けの記事で、同号は東京を立つ前届いていたはずだが、うっかり見落していた。所有者は、私の想像がぴたりと当たる安田氏であったが、入手された経緯については、次のように記している。

「昭和十年ごろ、安田さんが柏原町の古物商で見つけ、当時十円で買い、今日まで公開しなかった秘藏品。四十年前、柏原町のある老人が、高見城の夏草の下刈り中に発見し、持ち帰って、古物商に一円で

買ってもらった。その品に異常な興味を持った安田さんが、古物商に日参して手に入れたという」

私はなおもそれ以上に様子が知りたく、かねて知り合いであり、古丹波をはじめ古いものに詳しいYさんを訪ねた。記事にある「古物商」や「ある老人」が誰であるかも分った。Yさんの弟さんが城址出土の陶片を持っているとのこと、見せてもらいに行った。そして、前に述べた桂又三郎氏の登山を案内したのが、他ならぬその弟さんであることを知った。いろいろ話を聞いた上での結論として、その「ある老人」は、あちこちで掘出物を見つけていた模様で、はたして城址での出土かどうかは、すこぶる疑わしい。ただし、高見城山を中心に、大新屋部落か氷上町の稲畑部落あたりから出たことには、間違いなさそうであった。

「大名物 青磁碗 銘 馬蝗絆」として知られる天下の名碗がある。南宋初期、竜泉窯か修内司官窯で作られたものだろうとされている。平重盛が宋の育王山に黄金を寄捨した返礼に仏照禪師から贈られたもの、と伝えられている。この話は、平家物語巻第三「金渡」（かねわたし）に詳しい。その後足利義政が愛蔵していたが、小山富士夫先生の説によると、おそらく煮え湯を入れたためらしく、ヒビが入った。これと同じものを作らせようと中国へ送ったが、そのころは、中国でもこのような青磁はとうていできないと、カスガイでとめて送り返してきた。カスガイのことを中国で馬蝗絆（ばろうはん）というので、この銘が付けられたのである。

高見出土のこの青磁蓮弁文碗は、「銘 馬蝗絆」ほどの花の生涯でなかったにしても、宋時代江南の地でやかれ、昭和の現代わが郷里か

ら出土するに至るまで、どれだけ教奇な運命をたどったであろうか。想像を馳せるとまことに尽きることのない興趣を覚えるのである。

写真説明 柏原町高見城趾より出土の中国・宋時代の「青磁蓮弁文碗」(東京国立博物館刊行「日本出土の中国陶磁」書より複写)

黒井城落城の秘密

——喋った老婆一族惨殺——

畑 正義
(春日町在住)

黒井城落城の秘話

国鉄福知山線下り列車で、石生駅を出ると、間もなく左側に黒井城跡が見え出す。そして黒井駅からは、山城の石垣までもはつきりと見え、多田トンネルのあたりまでは、その雄姿が眺められる。この黒井城のことを、昔は猪ノ口城、保築城あるいは保月城ともいっていたようだが、昭和四十九年三月、兵庫県史跡に指定された。

戦国乱世のころ、この山城は明智光秀に攻められ、その水源を断たれたために落城したことは、子供のころからよく聞かされたことであったが、この落城の秘話が、果たして郷土史の史実か、あるいは単なる伝説であるのか、たいへん興味のあるところから、以下筆を進めてみることにする。

金造り師橋爪株

戦国時代、黒井城城山の山麓のとあるところに「橋爪」と名乗る豪族の金造師の一人數十人が、仮住居の掘つ建て小屋の飯場に住んでいた。この橋爪一族は、紀州は和歌山県熊野の出身で、採鉱を生業とし、京都府船井郡瑞穂町(元檜山村)に生活の本拠を置き、各地を転転として掘り歩いていたという。

この一団の首領は「ふじ乃」という老婆で、その夫は「六郎次」といい、現場長として鉱掘の総指揮監督に当たっていた。金造りはいつの世にも、最も重要がられる業務であるため、彼らは武断政治の圈外にあって、治外法権下に座する特権階級としてその高い格式を誇っていた。これが、古川茂正編の「丹波志」にみえる「橋爪株」である。

市島町白毫寺の背後に「陷虎ヶ岳」がある。その地が彼らの拠点であった。その証拠に、そこには銅鉱があり、現在でもその鉱道も残り(次頁写真参照)精銅のためタタラを踏んだ跡も、その残滓もある。昭和二十八年の、風水害のために、長年にわたり堆積した鉱害物質が、一度に戸坂川上流へ押し流され、ために白毫寺の「心字池」のヨイ、川沿線の魚虫類から、水稲も黄色化してみな枯死してしまった。昭和三十七年、上流に砂防ダムを築造してからは、鉱害はなくなっている。

城主赤井と攻勢明智

黒井城主赤井直正は、当時は稀な豪傑であった。黒井城も彼が城主となってから二十五年間の長い年月をかけて、全山系くまなく防禦を



固めた堅固な山城を築いた。しかも、鉄砲の渡来後未だ日が浅いのに鉄砲隊までも組織していたという。

このため明智光秀の黒井城攻撃は、実に難攻不落をきわめた。光秀は信長から丹波の平定を急がせられて心胆を砕いたが、容易に落とすことはできなかった。

だが、さしもの黒井城も光秀が天正三年に始めて攻撃をかけてから天正七年まで、五ヵ年間の歳月を経て、漸く落城したのであった。その間に、二度までも不覚の敗退の憂き目にあっていく。これも、光秀が信長から不信を招いた最大の要因ともいえる。

秘中の秘・水源

第三回目攻撃の天正七年の初夏、もう日差しも暑くなったころ、橋爪株の首領「ふじ乃」は、洗濯に余念がなかった。そこへ、旅姿の若者が現われたのである。この若者こそ光秀の間者で、「ふじ乃」から黒井城の水源の秘密をかき出し、落城のキッカケとなったというのである。

その水源地は、白毫寺の背山「五大山」の中腹「堂の床」に、滾々と上流から湧き出る山水が集水するところにあった。

竹の節を抜き取り、竹と竹との接ぎ目は、長さ二、三〇センチの丸太切れで接続する。竹が駒の首部、丸太切れが駒の首で、ちょうどその格好が駒の首に似ているところから、これを「駒の頭」という。

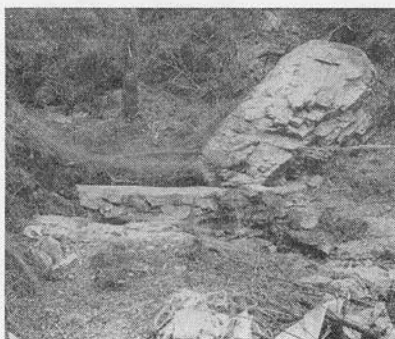
この送水パイプで、黒井城の頂上までは届かないにしても、どこか中腹の「堂の床」と同じ水準高の地点まで谷越え山を登って送水し、城下のそこでは大きな水桶に水を溜めておいて、手桶で城内まで担い上げていたものであろう、と思われる。

ところで、その水源地は、里人はもとより、赤井勢でさえも担当者以外は誰知らぬ秘密中の極秘事であった。

ところがある日突然に、城下の水桶に水が一滴も出なくなってしまう。

四囲の情勢から、容疑はひとしく橋爪株にかかって来たのだった。そこで、赤井側は橋爪鉢の現場にどつと斬り込み、一団を皆殺しにしてしまったというのである。

余談となるが、この「堂の床」の水源地は現在は春日町古河の部落有地であるため、生活用水の不足の古河区は、昭和四十八年十二月から、ここ（写真参照）を水源として、簡易水道を設置している。



首領一族を生き埋め

この悲報を聞いた首領「ふじ乃」は、取るものも取りあえず、配下と家族ら七人とともに、檜山に逃げ帰りをかけたところ、途中、市島町北岡本で赤井勢に追いつめられて、無惨にも一同生き埋めにされてしまった。その日は、天正八年六月十七日終焉と白毫寺の供養塔には書いてある。

この生き埋めの地は、現在の国道の西側に沿う田地の中の一角の地、ムクの古木に数十条の藤ヅルが絡みつき、雑草が繁茂している。世にこれを「藤の森」または、「藤塚」という（写真参照）。だが、一説には赤井か明智の捕虜を生き埋めた地ともいい、諸説は紛々として掘るところがない。

運よくも生き残った首領の孫娘は檜山に帰り着き、一族を探し求めたが、誰にも会うことができず、ついに世をはかなみ、高屋川に投身自殺をしてしまっている。

現在でも、瑞穂町には、「橋爪」と「高屋川」の地名はある、と町役場から回報されてもいる。



藤の森のたた

当時この「藤の森」にはたたがある、といって恐れられていた。昭和初年頃は、米価安のため農家は極度に疲弊し、七〇八年頃は、地方振興事業として全国的に大土木工事を施工した。その際、当時の村当局はこの道路拡幅改良工事を行なったが、その工事が「藤の森」にかかった。

ところが折悪しく施工の際に責任者は死亡し、村内に白昼三回までも原因不明の怪火が起きた。そこで村人たちは、これこそ「藤の森」のたただろうと恐れられたものであった。

藤の森の南隣りに、昭和二十四年に法華宗大乘寺が開基された。木下妙仙尼住職によると、法華経八巻の経櫃（きんびつ）を背負った武士が霊視されたので、常に法華経讃誦の供養を励行したところ、その武士も現われなくなった、と。

昭和四十九年夏、舗装工事で再びこの森を掘り起したが、別に何らのたたりもなかった、とのことである。

筆者紹介 春日町多利で明治三十八年六月生まる。元春日部村および春日町議会議員並に議長、春日町長、天台宗兵庫（県）教区壇信徒会長など歴任。昭和五十年秋の叙勲に勲五等瑞宝章を授与され、昭和二十三年、菩提寺への物心の功績により天台座主から生存者院号を受けている。

社会は連帯である

有田 喜一

(永上)

“物足りて心亡ぶ”ということがいわれているが、今日わが国の世相をみると、まさにその感が強い。

かの有名な江戸時代の豪商、紀国屋文左衛門も年老いてからは、心の面を大切にしたいというが、彼の若い頃は、一代であれだけの財を成した人だけに、世の中すべて金、金で、すべてのものが手に入るし、人の心もちろん金で買える信じ、自からこれを実行した。にもかかわらず、晩年心境の変化をきたし、心の面を大切にしたのである。それは人の心は、金や物ばかりでは動かされるものではないということが、体験上よく分ったからである。

なるほど若い頃の文左衛門は、金を持っているのに人から嫌われ、金を使った割に人望がなかったという。逆に晩年は金もなくなり、金を使わなかったのに、人から慕われたという。

若い頃の紀国屋文左衛門と、今日の世相が似ているように思う。高度成長高度成長で、世界の経済大国にまで上った日本であるが、肝心な愛国心とか祖国愛、あるいは社会連帯というような大事な心の面を、すっかり置きざりにしてきた感がある。

ご承知のように、資源小国の日本は、今後、どうしても高度成長より安定成長へと転換してゆかねばならぬ時である。“消費は美德なり”といった時代は過去のものであって、物・物・物、金・金・金の時代は過去の遺物である。ここに人間の幸せを、心の豊かさ求めねばならぬ必然性がある。今まで置き去りにされがちだった心の面、モラルの面にあらゆる施策の重点を置くよう、頭の切り替えが必要となってきたのである。

どうも今の日本は総論賛成、各論反対ということが平気で行なわれている風潮が強いように思う。自分さえよければ他人はどうなってもよいというような考え方で、どうしてよい地域社会やよい国家社会が造られましょうか。

先般行なわれた公労協の違法スト——スト権ストのときは、国民不在の労働エゴの最たるものであろう。労働基本権は尊重すべきであらうが、総評がああいう体質を続ける限り、果たして国民が安心してスト権を与える気持ちになるだろうか。

お互い、社会は連帯であるとの考えを強く持つてゆかなければ、明るい住みよい地域社会も、国家社会も、築きにくいのではないだろうか。

政界はもとより、教育界も宗教界も全ての各界各層が、いわゆる人間の道——真の人間形成に力を入れて、日本人の心の改造に重点をおくべきときにはなからうか。

(本会名誉会長・衆議院議員)

丹波人の誇りと感謝

足立三治

(青 垣)

不況に暮れ、不況に明けた昭和五十一年の今日このごろ、会員の皆さんはいかが過されていますか。私は来る年ごとに、自己の立場に依じて、今日の社会をどのように行動すれば、常識的な社会人としてスムーズに過し得られるかを思わざるを得ません。そして社会のすべての人々が、いまし心をゆたかにして、生き甲斐のある希望の社会を造ることに努力すべきではないかと考えます。

社会は自分ひとりの力では一日も生きてゆけない現実であることを知り、各人がそれぞれの分野で、正しい社会観を持って行動すべきであらうと思います。

社会をリードする人々は、現在の政治、経済、教育の諸問題に対し、毅然たる態度で一般大衆の前に実践、行動しているだろうか。

自己主張は各人の持つ当然の権利であります、その持つべき責任と義務観念を平気で軽視することがまかり通る現在であります。そのために現実社会はますます不安感と信頼性を失うような事実を数多く体験し、強い不安感を抱いています。しかしながら、これらの不安感をいたすに他人のせいに帰せず、自分自身に反省を求めるべきだろふと思います。

そして私は折にふれて、過ぎし日の古里を身近に追想し、長い豊か

な尊い体験と、企業を自己の天職として、少しでも地域社会のために奉仕活動と続けるつもりであります。

郷土を離れて五十年余り、静かに過去を考えると、さらに新たな意欲と喜びと感謝が生まれます。私は丹波人としての感謝と誇りとその実践を郷友の皆様とともに手を携えて進みたいと念じています。

(本会々長・つるや産業社長)

山南町の近況報告

町長・前田朝一

- 一、面積 八・四二K^m (旧の上久下、久下、小川、和田村)
- 一、人口 一四七六六六人
- 一、五〇年度Ⅱ山南中学校改築(小川地区 尾内体育館建設)
- 一、" 梶 地 区Ⅱアラヤ工業KK進出……三〇〇〇坪
- 一、" 草 部 地 区Ⅱ小沢ボラコンKK進出……一〇〇〇〇坪
- 一、" " Ⅱ山南カントリー進出準備中
- 一、" 小新屋地区Ⅱ九栄コンクリートKK進出……一五〇〇〇坪
- 一、" 上久下地区Ⅱ川代ダム工事……交渉中
- 一、" 和田地区Ⅱ広域簡易水道工事中。

柏原町長に谷口氏

谷口 務氏(大12・10・8生) 五十年十月二十五日、町長に当選就任さる。

お知らせ

今秋・八十歳以上の長寿者を祝う会

☆該当者は ハガキでお知らせ下さい！

☆☆御賛同の会員は ご寄附のお申し込みを！

わが郷友会会員の中には、明治・大正・昭和の三代にわたり、幾多の苦難を克服して輝かしい業績を遂げられ、今日なお長寿を保たれている方々が数多くご健在であります。わが郷友会は、これらの方々に対し、無限の尊敬と祝福を抱きながら今日に至りました。

昭和五十一年初頭の役員会において満場一致、『長老たちをお祝いしよう』会を結成することになり、その時期を来る十一月の定期総会に引き続いて開くことも決定いたしました。

本会はこの決定に基づいて早速諸般の準備に入るわけですが、何分にも正確な人員、生年がつかめておりませんため、まずその調査から始めます。つきましては、会員の中で明治二十九年（一八九六年）次前にお生まれの方々は、お手数ながら、

お名前

生年月日

出生地

をハガキで、来る六月末日までにお知らせ下さるようお願いい

たす次第であります。

なお、このお祝いの会を催すに当たりましては二十万円ほどの費用を見込んでおりますが、残念ながら本会の会計にはその余力がございませんので、広く会員各位からのご賛同を得て、郷友会の総意を結集して盛大にご祝福申し上げたい所存であります。そこで、

一口 参千円以上

ご寄附を仰ぎたく存じます。なにとぞご趣旨にご共鳴下され、進んでお申し込み下さるよう会員各位に切にお願い申し上げます。（この寄附金は来る十月末までに、便宜の方法でご送金下されば幸せに存じます）

昭和五十一年二月

関東氷上郷友会会長 足立 三治

八十歳以上の長寿会員 各位
一般郷友会員 各位

ローマの休日

西川 政一

(市島・竹田)

三回目の訪れ

五一年の一月中旬、私は曾遊の地ローマに五日間の旅をした。今度で三回目の逃避行(?)で、ノンビリとした旅ではあったが、政治と観光の都ローマには、日商岩井の支店がないので、何かと気をつかった。

私が初めてローマを訪れたのは一九五二年の秋たけなわの頃で、アメリカで正式にオフィスを開設して帰路はヨーロッパの有名都市五、六ヶ所を経由して……という予定であった。当時は今日とは状況が異なって一粒の米もノドから手が出るほど欲しい日本の惨状であった。日本では「苦い米」(ビターライス)という映画がヒットしていた頃である。この映画はミラノからトリノへ行く途中のベルチェリーという日本種の米の生産地近くで撮影したものである。そのロケーションを見にいった私は、その苦い米が同時に「苦い商売」であったことを思い出した。

ローマとミラノの間は、あたかも東京と大阪の距離内で、寝台で一夜寝ると翌朝は到着するという便利さであったが、私のビザは七日間

しか用意していなかったのに、商談には七ヵ月もかかるという苦い経験をしたわけである。もっともビザの延長更改は、チョット、スイスに旅行するだけでよかった呑気さも手伝っていたようだ。

私のローマ第一回の訪問は終戦後間もない時で、日本の在外公館さえなくて、今は亡き原田大使もピアベネットのホテル・グラントにおられた。大使は帰国後、侍従武官長に就任され、進駐軍との交渉にはずいぶん苦労されたように聞いている。私はある所用で宮中に参内したとき久方ぶりにお会いして久調を述べたが、人をそらさぬ円満な人格者の追憶がある。

ムッソリーニを憶う

それから五、六年経て再びローマに行ったときは与謝野大使で、郊外の山上に公邸を建てていて、招待を受けた。東京オリンピック以来の再会で、お互いの文運の長久を祈りあったのであった。

ムッソリーニはヒットラーに次ぐ枢軸国の大物で非常にワンマンであるが、かなりのアイディアマンであり、数奇な運命を辿った男であった。イタリアを語る時、彼ムッソリーニも語ってやらぬと気の毒である。

ローマの流れといえば、パリのセーヌ河を思い出すが、雄大でしかも静かなチペール河の流れは忘れられない。都心でチペール河の中央向う側に「フォロイタリコ」という世界オリエンティックをやった広大なスタディアムや無数の塑像があり、またチペールを跨ぐ石橋の一端に「ムッソリーニ」と彫り込んだ石塔が厳然と建っている。イタリア国内どこへいっても「ムッソリーニ」という字は抹殺されているが、こ

ローマ・スペイン広場



こばかりはもとのままに残されているのを見ると、私は深く考えさせられるものがある。

彫刻・噴水・料理

さて三日間に及ぶ国際会議のあと、これもまたムッソリーニの発想になるというEUR都市との区別を明確にしようとするもの（を一瞥したが、その構想の奇にして大なること、さすがにムッソリーニなるかな！）と思ったことである。

ローマは市内至るところ、数々の彫刻と噴水もさることながら、ヴァチカン市庁の存在と現状、まことに訪れる人をして感嘆・茫然たらしめるもので、イタリア人は恵まれすぎて馬鹿になるのであろうか？ イタリア滞在最終日に、私は有名なティボリを訪れた。これまた聞きしにまさる美しく優れた土地で、千数百の噴水と庭園、一望千里の広野と果てしない山々、華嚴滝の何倍かあるという水量豊かな飛瀑など、すべてが私の想像を超えたものであった。

さて、ローマ・イタリアといえば、私はイタリア料理のことにふれおきたい。

その昔、私はローマの名物として、アルフレドというフェトチーネ

（きしめんに似た麺類）の店へよく日本のお客を招待したものである。その主人はカイゼルひげを伸ばし、専属の音楽に合せて、ダグラス・フェアバンクスとメリー・ピックフォードから買ったと称する金のフォークとスプーンで、出来上ったフェトチーネを大皿の上で交ぜかえし、来客に対し、順々によそってゆき、最後の残りを大皿のまま最も大事な客（メイングェスト）に食べさすのである。曰く「もっともおいしい部分」だというのである。

スパゲチは私が輸入した

しかし、今日では代がかわってダメになったという。そこで純イタリア料理のところへ……というので行ってみると、なるほどおそい時間だというのに満員であった。そしてまずワイン（ドイツでは差し当たりビールというところ）が出る。それからスープの代りはスパゲチである。（スパゲチは洋食のスープの段階で、その分量もまたベラボニーに多く、日本人は大抵これで参ってしまい、メーンディッシュは食べられない、というのが普通である。なお序でのことだが、日本のスパゲチはその製造機械の代理権はすべて私がイタリアから持ち帰ったことを一言しておく）

ところで、この店にはとても上品で可愛い娘がいて、私たちに親切で、特に私の妻にはいろいろと話しかけて、その心をつかんでいたように、妻から贈物を自発的にさせるところまでになった……など大した娘であった。

ホテルもあるスポーツ会社

五〇年七月下旬の暑いさなか、国際裁判で有名な西独のニュールンベルグ郊外ヘルツォーゲンアウナッハで開かれる国際会議に出席した。

この地には世界的に有名なスポーツ用品メーカー、アディダスの本工場がある。そして、日本の美津濃やタチカラなどそのけの合理的経営をしている。サービスの面においても、海外の顧客を引きつけるために会議用のホールや美しいプール、テニスコートなどを備えた近代的ホテルまであって、国際会議まで誘致してPRしている。

私たちはこのホテルで三日間正式会議を開いた。三日目の午後はバスで工場の見学にあてた。

工場の作業はすべて完全なオートメーションで、合理的運営が徹底しているようであった。もちろん見本展示室やスポーツ関係の歴史的資料室なども整理されていた。

この地から約二十キロ北方には、西ドイツにおける有力電動メーカー、ジーマンスの主力工場のあるエルランゲンがあって、このジーマンスと提携している富士電機の横川さんいろいろな面倒を見て貰って助かった。ミュンヘン以来のことであった。

四日目にはエルランゲンの街を案内して貰って、特に松林の中の広大な敷地に散在している工場の偉観に瞠目させられた。

次の五日目にはエルランゲンの西北にあるバンベルグの古蹟をも案内して貰って、たいへん得るところがあった。

ホテルへ帰ると会議終了を祝うパーティが開かれていて、各国の人々と歓談し、各国人のスポーツに対する考え方なども知り、非常に有益なパーティであった。

翌朝はデュッセルドルフを経てアムステルダムに到着した。ここに来たのは、ホテルオークラの野田会長からは非にと懇請されたためである。このホテルはホテルオークラが合弁事業として成功しているのである。

オランダ独特の風物もエンジョイ出来たし、終戦直後から今日までのオランダの変遷も知ることが出来て、ここまで足をのばして来た甲斐もあったというもの。

帰国の途次、ロンドンに飛んだが僅か一日の休養であったが、最近バンクーバーから転動して来た北村君がチームズ河の北方を案内してくれた。欲をいえばもう少し時間があつたらチームズの流れを悠々と味わいたいと思ったりしたが、「腹八分」がいいところであらうか。阿々。

(国際バレーボール副会長・日商岩井相談役)

アメリカ建国記念行事に舞って

西崎 祥

(柏原)

国際親善を目的とする舞踊の旅も五度目、今年は米国ユタ州プロボ市ブリガム、ヤングユニバーシティに於て開催された。

米国独立二百年記念行事、および同大学創立百年祭を記念して行なわれた「国際民族芸能祭」に参加するよう委嘱を受け、八月下旬から二週間余りの旅へ出た。途中、常夏のハワイで鋭気を養い、楽しく三

日間を過した後、サンフランシスコを経てソートレイクに着き、関係者や日本人クラブの人々の歓迎を受け、雄大な自然の中を車で目的地に向かった。フェスティバルが開催されたのは学園内のマリオットセンター、二万八千人入るといふ大会場で連日賑わった。

その様子は例年のごとく華やかな熱気溢れるものであり、「無表情で踊る日本の踊りは神秘的で素晴らしい、日本がナンバー・ワンであった」と評判もよかったが、今回は、話題を変えて、見たこと、感じたことなど書いてみたい。

吸殻一つないユタの街

このユタ州の人々は、熱心なモルモン教の信仰を持ち、何事も祈りで始まる。珍しいことにはアルコール、たばこ、ギャンブルの一切が禁止されており、コーヒーさえ飲まない。気を付けてみると、どこに入っても灰皿はなく、道路には吸殻一つ落ちていない。お酒を売る店も見当たらず、従って酔った人など夜の町にも見られない。私も期間中はその規則に従うつもりで出掛けたのであるが、宿泊したホテル内ではそういったこともなく、抜け目なく買い込んでいった人もたぐさんあって、毎晩ご馳走になってしまった。

町は美しく、人間は真面目で健康的で、たいへん結構なことだが、若者達は一切何に若さを発散させ、生活を楽しくしているのだろうか。そのことを学生さんに聞いてみると、恵まれた環境に豊かな財政で、スポーツや音楽など、趣味を楽しむ設備は充分に整っており、自分の伸ばしたい才能は大学で専門的に磨くことができる、と施設に誇りをもっている彼等からは、何一つ不満の声が聞けなかった。広々とした

グラウンドや、球場はいくつもあって、オリンピック選手も多いという。長髪の学生は一人も見られず、大きな背中に小さなカバンを背負って自転車で通学している、のどかな学園風景がいっぱい見られた。

個性を生かした学園

この大学は学園だけを目的にせず、何でも人より秀れたものを見出し、その研究をする、それが認められると専門家として資格が与えられる、変わったものではフォークダンス、フラダンス、インディアン

の投げ縄、奇術、曲芸などもプロとしてやっていけるそうで、各々が思い思いの個性を生かした勉強をしていた。学力だけで地位を勝ち取ろうとする日本の若者とは比較できないほど、余裕に満ちていた。しかし同時に学生結婚も多く、子供連れの二人を芝生や食堂でよく見かけた。

この大学の教授で、今度の大会の総指揮を務めるメリー女史は、相当の年齢でありながら、引き締まったスタイルと、満身笑みを浮かべた若々しい動作で、大会中精力的に行動し、我々にも連日レセプションだ、パーティーだ、と盛りだくさんのスケジュールで温かいもてなしをして下さった。

なかでも、モルモン教最高の地位にある方にお会いし、立派な建物の中を案内され、ねぎらいを受けたレセプション、同大学学長宅での各国交歓風景など印象深いものであった。その他、大学関係で日本最良の方々の希望により、三人一組に分れて各家庭を訪問し、アメリカの家庭生活を実際に拝見することができた。各々の家庭では奥様方が腕によりをかけた自慢の料理を用意して下さっており、その味はデザ

ートにいたるまで、さすがに楽しく、食べ過ぎてしまった。これでも太り気味の人が多いのも納得できそうな気がした。

趣味を生かした家庭生活

最初の日に訪問したモーガン家は、眺めのよい丘の上に建つ大きな家で、広い居間には、日本的な鉢など置き、可愛らしく着飾った子供達がゾロゾロ挨拶に出てくる。どこの家も子供は多いらしいが、十人以上とは珍しい。それなのにこの夫婦は若々しくて、魅力的であるのには驚いた。婦人はユタ州のミセスコンテストに選ばれたとか、た

いへん素適な女性で、まるで「模範家庭」ともいへべき、素晴らしい家族であった。

翌日伺ったバトラー家は、大学で科学を教えているというご主人は留守だったが、日本に行ったことのある大学生の息子さんがいたので話題も多く、食事のときも日本語でお祈りしてくれた。この家の特徴はご主人の仕事場で、日曜大工といっても、本職以上に機械や道具が揃っていて、製作中の大きなベントは、凝ったデザインで、独自のアイデアによる便利なもの、素人離れた腕前に感心し

てしまった。家具は全部自家製だとか、趣味もここまでくれば立派なものである。

その他の家でも、牧場をもっているとか、果樹園を持っているなど、仕事以外に打ち込めるものを持ち、働く時間と、自分のために使う時間を、うまく使い分けているのが羨ましかった。日本でも週休二日制が多くなったが、土地が狭いうえに、人間の多い都会では、どこまで自分に適した生き方ができるだろうか。余った時間を、趣味で生かすなり、社会に役立てるなりして、もう一人の自分を発見し、育てることを考える時期ではないか、そんなことを痛感したのである。

良い舞台を見せる努力

私がこの仕事を毎年続けて感じる大きな喜びは、海外旅行ができるという特典の他に、日本を離れて、自分自身が見つけられる、判るということがある。毎日の生活にややもすると見失ってしまいうような大切なものに気が付き、またそれを取り戻すことができる。そして新しいファイトを抱いて帰ってくる。私にとって考える時間がもてるということは、たいへんに有難いことだと思っている。

もう一つ、この仕事に最初から参加しているメンバーは、交流協会の理想とする「唄や踊りを通して、世界中の人々が仲良くする」という純粹な熱意に賛同し、日本の良い芸能を世界に紹介したいという情熱で集まっており、出発前はもちろん、大会開催中も、毎晩その日の感想を話し、ダメを出し、意見を出し合って、少しでもよい舞台を見せようと努力する。

一つの目的のために、惜しみなく力を出し合う、そして無事に役目



モーガン家で(右から5人目・筆者)

を果たし、すべての行事が完了した時、お互いに感謝し喜びを分かち合う。その時の固い握手はことばではいい尽せない素晴らしい感動で、日本では味わうことのできない体験である。その魅力にひかれて、仕事の都合をつけ、あるいは、その期間の仕事を全部断わってまでも参加している。そういうお仲間と仕事ができることは、私にとって、このうえない幸せであり、舞踊家冥利につきるのである。

国立舞踊学校を建てたい

それにしても、日本には世界に誇れる秀れた芸能がたくさんありながら、それを正しく保存し、研究し、発展させるための専門家を育てる学校が一つもないことは常々残念に思っている。ヨーロッパ諸国でもアジアの国々でも、全部国立の舞踊団がある。日本はそれらの国々に比べ、遙かに文化水準も高く、経済でも先進国でありながら、未だに国立の舞踊学校すらない。

今は亡き師、初代西崎緑が、生前、話しておられたことを懐しく思い出す。「今に大きな舞踊学校を建てるからね。地方から志して来ている人には寄宿舎も、稽古が終った後、汗を流せるシャワー室も、芸のことなら何でも調べられる参考書の揃った図書室も備えて、そしてゆくゆくは国立の舞踊学校にしましょう」と。

不幸にも先生の亡き後二十年、その夢は、まだ叶えられていない。無力感が胸をよぎるばかりである。日本の芸能なら何でも修得できる。そして内容も高度で芸術性豊かに高められ……。そんなことを思いめぐらした今回の旅であった。

(日本舞踊家)

常岡画伯・故宮誘拐記

渡辺隆男

(朝坂)

去年の春のことだった。氷上郷友会で知り合った常岡幹彦さんとお茶をのんだ。彼は名高い常岡文龜画伯の嫡子、既に一家を成す日本画家であり、私は東洋の美術にかかわる出版人、話はどこかで台流するはずである。

「東京国立博物館にある梁楷の雪景山水図をご存知か」と。知るもしらぬも、それは私の意中の名画、話題は出合いがしらからはずんだ。「台北の故宮博物院をぜひご覧なさい。もっとすごいのがゴマンとある。第一、日本画の源流は中国、日本画家のあなたがそれを見ない手はない」と。私はつよくおすすめしたのだった。

その翌月のある日、私は故宮博物院の一室で、一幅の宋画を前に我を忘れていた。幅一メートル、縦二メートルを超える范寛の大作「谿山行旅図」である。峨々たる山峽を行く旅人、大自然と人間の無常との対比を描きあげたともいふべき故宮でも屈指の名画、恐るべき迫力で見ざる者を圧倒する。(写真)

常岡さんがこの画を見たら何ていうだろう。彼に見せたい、どうしても見せたい。――楽しみはこっそり一人占めにしたのが人情なのだが、ふしぎである。これぞ「山さる」のえにし。

◇ 昭和五十年十一月十六日、三百キロもある大型カメラを携えた四人の撮影隊が台北の空港に降り立った。台湾随一の富豪・林氏のコレクション、中国の古書画五百点を撮影するためである。私と社員二名、それに記録を担当(?)する常岡幹彦さんである。撮影には故宮のスタジオが提供されて、その後十八日間、我々は毎日故宮へ通うことと相なったのである。

◇ 台湾はいま、いうまでもなく中華民国である。統治国が七回も変わったという悲しい歴史を知る者は少ない。戦後三十年、世代は変わり、日本語を話す人もめっきり少なくなった。私は四度めの訪台、最初は七年前、そのころとは見違えるほど発展した。中国大陸との複雑な関係はともかく、台湾はいまやGNP世界第三位を記録するエネルギー豊富な国である。勤勉で、真面目で、律儀で、人情に厚い民族で



ある。

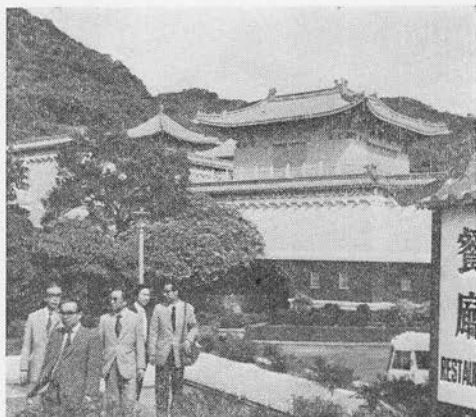
私はここを訪れるたびに知人がふえて、親しみいよいよつのるばかりだというのに、日本は中国大陸に近づくために、にべもなく台湾との国交を断った。政治は勝手なものである。だが、台湾の人々は誰もそれを恨んではない。政治は政治、台湾と日本とは隣人のよしみ、切っても切れない縁ではないか、というのである。

昭和二十年、ポツダム宣言を前にして日本分割統治案が出た。蒋介石が、ルーズベルト、チャーチル、スターリンを説得してそれを阻止した。「怨敵には徳をもつて報いよ。然らざれば怨恨は永遠に反復されよう」この蒋介石の鶴の一声で、日本は莫大な賠償金もまぬがれたのだ。蒋介石なかりせば、日本は間違ひなくドイツ、韓国のように、二分ないし三分されていたはずである。

蒋介石が死んだとき、台湾では大衆みなその徳を慕って涙を流したという。よほどの信望である。彼の思想が台湾の民衆の心に深く流れているのは、旅行者の我々にも容易に汲みとることができる。

◇ 林氏のコレクションはすばらしかった。いわば毎日が書画観賞の仕事である。仕事実利につきるというものだ。故宮の陳列も、二十日間の余暇のほとんどをあてて観賞した。故宮博物院は、東京国立博物館ほどのスケールだが、その所蔵品は乾隆、嘉慶、宣統の各皇帝が蒐集した中国美術品の粋、二十万点にものぼる名品群である。日支事変の難を逃れて北京から重慶、そして台中、台北へと運ばれた中国伝来の巨大な芸術の宝庫である。

時間はたっぷりあった。陳列の一点一点を、毎日くり返し穴のあく



ほど観賞する。見れば見るほど深い。常岡さんが感激したのはいうまでもない。中国料理を食べ、中国の地酒・招興酒を飲み、中国の文人と交流し、中国伝来の美術観賞に明け暮れたこの二十日間、彼にも私にも生涯強烈な印象となって残るだろう。

はいくら飲んでも崩れない人を「酒仙」といい、トラになるのを「酒鬼」という。彼はまさに酒仙である。中国の文人はみなよく酒を飲んだ。詩書画によくそれが伺える。

毎日、招興酒を二、三本小脇にかかえてホテルに帰る四人の文人(?)は、その日の感動を酒の肴にするのが日課となった。深夜つきない談論も、いつしか仙境にいたればことばを失うのが常であった。

美術に分け入れれば、そこにあるのは作者の人間である。その人間の美意識である。その美の意識は、その時代とともにあり、伝統の上になりたつ。醜と悪とを淘汰して美と善とを伝えるのが伝統である。ヨ

ロッパにはヨーロッパの伝統があり、日本には日本の伝統がある。数千年、人智昇華の累積である。

だが、いま日本の伝統はどこへ消えたのか。外来文化を吸収するのは結構だが、せっかくの日本の伝統を忘れてはともとももない。戦後日本の三十年は、伝統破壊の時代ではなかったか。そういえば、日本人の人情もずいぶんせちがらくなつたものだ。丹波の山河は変わらないが、我々が子供のころにひたつたあの人情も、そういえば、うすれている。……二人の山ざらは、台北のホテルで、しきりにいまの日本を責めたてた。故宮の美術に、台北の人々の中に、あまりにもみごとに伝統が息づいていたからである。

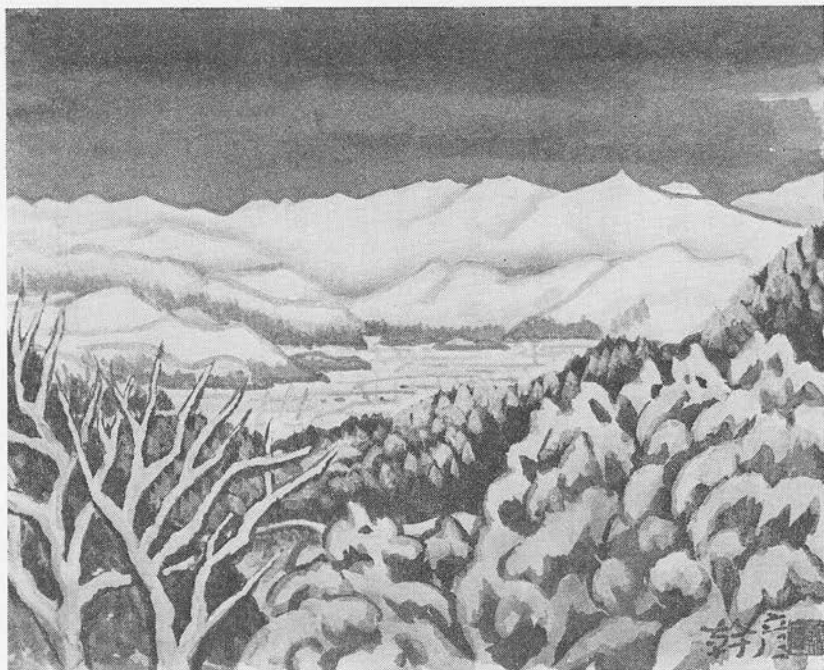
仕事の終る前日のことであつた。私たちのために、倉から例の范寛の名作がとり出されたのである。「常岡さん、これだ、あなたにいちばん見せたかった画は！」。彼は息をのんだ。顔面蒼白、うちふるえんばかりでことばが出ない。

「よかつた、さそつた甲斐があつた。それにしても彼のこの感動は尋常ではない。見えるのだ。彼はやはり本物だつた」私はよき友を得たことを改めて思つたのである。

幹彦さんは今年の七月、中央公論の画廊で個展をやるという。彼の絵がどう変わるか私はその日が何とも楽しみである。そして私はいま、林氏コレクションの書画の出版を目ざして編集に余念がない。これまた楽しい限りである。

(写真：故宮博物院を背に、向つて右端が常岡氏、一番手前が筆者)

(二女社社長)



「旅」

常岡幹彦

(柏原)

昨年の晩秋、二女社渡辺さんのお誘いで訪ねた台北の旅は、毎日故宮に通い、心ゆくまで古美術に明け暮れたすばらしく贅沢な二十日間であった。

絵画・書・古銅・宋磁等々、その奥深さ、重さに驚異を感じ、中でも庄巻は一点の北宋画であった。画面全体から訴えてくる強烈な迫力に息をのみ、言葉もなく、一千年も以前に生きた作者の魂にただうたれて立ちつくすのみであった。

帰国して旬日、雪模様のふるさとの山々は、あの歴史の重さからホッと心の緊張をときほぐしてくれた。朝の遠阪峠に立つと降り続いた新雪にはるかな連山が輝き、見おろす冬田も近くの樹々もまぶしく美しい。昼前から吹き始めた身にしみる寒風も、此の雪景にふさわしかった。

(写生は昨年12月遠阪峠にて)

ペンシルカットの話

伴 仲 信 次

(春 旦)

我々中小建設業者は、大企業の波に押されて経営が困難に成りつつある。これはデパートやスーパーに押されて、小売店の経営がむずかしくなりつつあるのと同様な傾向である。

そこで、気心の知れた者同志が「多数と大量は力なり」の原則に則り、日建ユニオン事業協同組合を設立して、お互いの企業の向上と発展に努力をしている昨今である。

話はいささか古くなるが、たまたまインドネシアから、住宅五ヵ年計画の実施に当たって、日本に協力の要請があり、特に大企業を避けて中堅建設業者の協力を希望すること、わが日建ユニオンにその相談が持ち込まれた。

そこでよりより協議のうえ、調査団を編成して彼の国へ渡った次第である。

ジャカルタの商工会議所で編成した先方の委員と会議を重ね、また先方の案内でジャカルタやその周辺地区を視察し、製材木工工場や、資材流通の状況等を調べて一応の目的を果たし、結論は留保して帰国した。

ところで、この調査行の副産物的に、セレベス（現在スラウェシイ

と呼んでいる）で三十万ヘクタールの木材の伐採権が得られるというニュースを得た。

帰国後協議の結果は、住宅五ヵ年計画に建設業として出向するには時期尚早として見合わせることにした。何しろハダシ・ハダカでも生活できる土地柄と、生活水準が余りにも隔りがあるからである。

しかしながら、副産物の木材伐採の方は、これと関連して製材工場、木工場、ベニヤ工場など、将来性も有望であり、また両国の親善協力にも寄与できる、との見解のもとに、これと取り組むことになった。そこでその道に明るい者を加えて、調査団を編成して派遣した。

調査団にはインドネシア政府も協力して、警護として中尉を長とした兵六名、警官二名、案内人、それにジープ、舟などを用意して調査に協力してくれた。

何しろ道はあってもなきに等しく、スコールが来れば泥んこになる……時には舟で海岸線沿いに航行、ところどころで上陸して踏査するといった次第で、たいへん苦勞の調査行であった。

三十万ヘクタールの広さはちょっと見当がつかないが、淡路島か佐渡島くらいもあろうかと想像し、人家も稀れなジャングルで、そこには高さ二十メートル位までは用材となる熱帯樹が茂っていると、聞くだけに胸のふくらむ報告である。

結局有望との見解のもとに、正式に試験伐採の許可を得て、係員を派遣して伐採・造材して、第一船を名古屋港で陸揚したので検分に向いた。

船の運賃が二千六百余万円と聞いて驚いたのだが、着いた原木の山を見て再び驚いた。

大型トラックで五〇〇台分くらいの丸太の山である。それにもまして驚いたのは大小の丸太（直径四〇〜八〇センチ）の切り口が全部ペンシルカットである。四千数百本の丸太の両端はよく見ると全部斧で切つてあつた。

もちろん日本からチェインソーその他、伐採の道具は持つて行つたのだが、現地人は危がつて使わないのだそうだ。

初めに鉛筆を削つたような形で切り倒し、あとから矢りをハツツて平らにする、いわゆるペンシルカットで、近寄つて見なければ斧の跡が判らないほど、平らに奇麗に削つてある。

外地での仕事、ことに低開発国での場合は、我々の尺度で物を考えているととんでもない誤算が生じる。

今度の場合にしても、彼らは賃金を貰つても使う場がない。従つて勤労に意慾が湧かない。従つて能率もあがらない。派遣員も結局彼らと寝食を共にして督促しながらたいへんな苦勞をして、まず第一船を積み出した次第で、この船積みにも苦勞があつたと聞いている。

我々も新会社を設立し、またインドネシア側の会社もできて、現地での合弁会社設立の話の進行中に、インドネシア政府の方針として今後木材開発の分野において、外国企業をパートナーとする合弁会社の新設を認めない、とする決定をし、翌月より実施すると発表されたために、我々のインドネシアに掛けた夢は無慙にも消え去つた。

現在ではチークや黒檀等の製材品を輸入して、細々と会社を存続している次第である。海外事業のむずかしさもさることながら、この仕事を通じて、いろいろなことを学んだことを無駄にしたくないと思つている。

（春日建設株式会社社長）

畜産を太洋州に追う

小林 剛

（市島・鳴庄）

二十年前と変わった

「二十年前と比べて、シドニーは変わったでしょう」

「すいぶん高層建築が増えてるのに驚きました」

「なるほど……」

オーストラリアン・ミート・ボードの理事はうなずいた。彼の内心は窺うべくもないが、表情からすれば満足気であつた。しかし私自身は、二十年前の訪問時と比べて、シドニーの景観がやや新鮮さを欠いているのにささか失望していたのである。

事実、シドニーからは路面電車がとり払われ、やたらと自動車が増え（その1/3は日本製）、アメリカナイズした大きな広告がのさばつていた。そして有名なロイヤル・ボタニカル・ガーデン（植物園）も、ハーバー・ブリッジ（シドニー湾にある大きな吊橋）も、ハイド・パークも増加し、また増加しつつある高層ビルに取り囲まれ往時の美観を失い縮小した感じで、中心部の青空もせばまったように見えた。

ただ、市内電車撤去後、その車庫あとに建築されたというオペラハウスが新しく偉容を誇っているのが印象的である。最近建設されたこ

の大劇場は貝殻を模したとかで、国際的にデザインを募集し、西欧の設計者が入選したものだそうである。

シドニーではハイアットホテルに三泊した。市の中心部のキングス・クロスに位置するこのホテルは、構造はやや古いが、設備もとのつた一流ホテルで、なかなか居心地がよく満足した。

昨年十月二十五日から十一月十五日まで、中央畜産会の太平洋畜産研修チーム（総勢八人）の引率者として、オーストラリア、ニュージーランド、およびハワイの三国の畜産事業を駆け足で見て廻った。その最初の地の印象である。

関西弁も聞ける異国

シドニーから首都キャンベラへ飛ぶと、様相はがらりと変わった。人工都市として人智の粋を集めたというこの市街は、太陽と水と緑がふんだんに楽しめるように作り上げただけに、広大なしかも余裕のある美しい都市である。

政府機関の建物の外に各国の大使館が、それぞれの国力を表象するような特異な設計の建築物を展示し、旅人の目を楽しませた。ここでもアメリカとソ連が群を抜いて競い合っているように思われた。訪問した日本大使館は簡素であったが、大使の公邸の日本庭園はなかなかすばらしい。大使館に勤務するオーストラリア婦人は、日本人馴れしで分り易く、歯切れよく気楽に会話ができた。

キャンベラには有名な戦争記念館（写真）があり、ここに日本の特殊潜水艇が復元されて陳列されている。往昔の古傷を見る思いであったが、外人観光客は黙々として眺め、内部の複雑な構造を窺きこんで

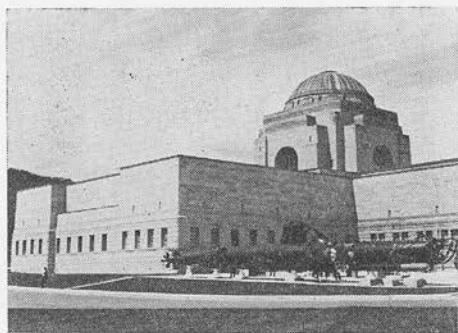
何かうなずき合っていた。

キャンベラでは、レックスホテルに一泊し、連邦政府農業省の酪農局長からオーストラリアの酪農事情の説明をうけた。意外なことは、この国の酪農は斜陽で、いま再建計画を練っているとのこと。国際的な経済悪化で、乳製品の輸出が伸びないことが、その最大原因であらう。

キャンベラからメルボルンに飛び、市の中心部にあるサザンクロスホテルに三泊した。これも一流の近代ホテルで、メルボルンの景観の一となって絵葉書にもなっている快適なホテルである。ここで、関西から来たというオパチャン達の一隊と泊り合わせた。異国の地であつたらしい関西弁を聞けたとは思ひもよらない喜びであつた。

メルボルンは、日本の京都のような落ち着いた感じの町で、二十年前とはあまり変わっていない。市内電車が残っている唯一の都市である。市民は市内電車を残したことがよかったと誇りにしていると、いつていた。

ここで、メルボルン大学農学部、農事試験場、デーリー・コーポレイション（酪農公社、乳製品の輸出を取りしきる半官半民の団体）お



よび肉牛農場を訪問し、オーストラリアの畜産事業について知識をつめこんだ。

牛肉を買って下さい

オーストラリアを旅して、政府、公社、農場などをめぐったが、彼等が異口同音にいうことは、日本が畜産物（牛肉やバター、チーズなど）の重要な市場であつて、今後とも大いに輸入して欲しいという切なる希望であつた。そして彼等が特に強調していることは、「日本に多くを買ってもらいたい。しかし、それよりも一定量をコンスタントに輸入して欲しい。時に多く、時には全く輸入しないということが、オーストラリアの畜産業に重大な影響を与えている」ということであつた。

前記のミートボードの理事は「オーストラリアは三千四百万頭の肉牛資源を有する、世界における主要な牛肉供給国である。日本人の嗜好に合うどんな銘柄の牛肉でも提供出来る用意がある」と強調し、特に年々増減しない輸入を特に希望したいと再三口にのぼした。

オーストラリアは、日本の二・三倍の面積を有するが、人口はわずか一千三百万人にすぎない人口稀薄な国である。そこで農業生産物がこの国の経済を支える重要な要素となっている。自然力によってその付加価値を生み出す農産物は輸出総額の六十四％を占めている。この国富によつて、オーストラリアは世界有数の高度の社会保障制度を持つ福祉国家となつてゐる。

社会保障が充実すると人間は働かなくなるといふが、オーストラリアでは、そのような気風はない。彼等が職務に忠実で職場を愛し、積

極的に勤勞している眞摯な日常生活には目を見はらせるものがあつた。彼等の勤勞意欲を支えるものは、最低賃金、週五日制、各種年金による生活不安の除去にある。勤勞に生き甲斐を見出し得る新しいモラルが成長しているということを痛感した。これも今回の旅の印象の一つで、しかも重要な点であつた。

オーストラリア一週間滞在後、メルボルンから、草地と牧畜の国ニュージーランドの首都ウェリントンに飛んだ。（中央畜産会技術主幹）

鯨を追つた夫を憶う

荻野経子

夫行雄こと、五〇年三月二十五日遂に永眠いたしました。さる四十六年秋脳出血で倒れましてより三年半近く、療養の甲斐なく七十四歳で亡くなりました。その間、兄定一郎を始め肉親の皆様、同郷の方々のお見舞を頂き、感謝しながら静かな眠りにつき得ましたことは、何より幸いでございました。

思えば丹波の山峡の春日町多田に生まれた小柄な一匹の山ざるが、海国日本の食糧事情の解決は水産にありと、クラーク先生の教えのとおり大志を抱いて、北海道大学水産学科に入学、漁労を専攻、大正十三年卒業と同時に東洋捕鯨（現在の日本水産）に入社、以来三十六年

昭和43年10月 信州にて



間停年退職するまで、ただただ捕鯨一筋に生きて参りました。その間、昭和七年千島斜古丹島に越年いたし、鯨の冷凍技術の開発に専念、一応の成功を見ましたのは嬉しいことでした。

夏はカラフト・エトロフ・斜古丹の各島、冬は台湾・小笠原、さ

ては朝鮮と、今日は外国の領土となっている島々の事業場を巡り、鯨の処理に専念して参りました。従って一年に、三回も四回も転居も珍しくなく、鯨の回遊の跡を追って、島から島への転々の生活が続きました。その間、私も家財をまとめて夫の参ります先々へ幼い子供を連れて参ったものです。心細いこと、苦しいことも数々ございましたが、今となりましては二度と渡ることのできない島々での思い出は、ただなつかしく、一番数多く渡りました斜古丹島の美しい眺めは終生忘れ難く、また肉親の眠る島に心を残して引揚られた島の人々の気持を思うとき、一日も早い本土復帰を心より祈らずにおられません。

昭和十四年長女の入学を期に京都に居を定め、夫は南水洋の捕鯨に挑みました。戦前は二回出漁、戦後は二十一年より再開されましたの

で、二十二年戦後第二次船団長として出漁いたしました。ロス海に入るなどの苦労を重ねましたが、全員無事帰港できて、ホッといたしました思い出もあります。

日本退職後日魯捕鯨部に入社、五年を経て傍系の石巻の太平洋造船会社社長に就任、七年間勤め、退職とともに東京に帰り、長男の家族、孫に囲まれて、朝夕の山草いじりや、時には好きな旅行にも出かけ、楽しい毎日でした。四十一年秋には丹波路を旅し、墓参や幼い頃の昔なじみにも会って、故里の秋を味わったことでした。

夫は生来無口の方で、何も口にいたしませんでしたが、発病後も水産や、ことに捕鯨のニュースなどには関心があったようで、時にはアルパムを出して楽しげに眺めていた姿が今も浮かんできます。本当に鯨とともに明けてくれの一生でございました。

至らぬ筆ながら亡き夫の歩んで来た道を申し述べ、ご交誼を頂いた郷友の方々に「山さる」を通じて、厚く御礼を申し上げる次第であります。

幸せの余生

藤尾 ちえ子

(西脇)

心ばかりはいつまでも年をとらないのですが、いつの間にか七十を過ぎ、何ともひとことのような気がいたします。

私たちは五十年前、天皇陛下にあやかり、同月同日に結婚式をあげまして、昨年はちょうど金婚式でした。そのうえ、夫は喜寿、私は古稀と祝うことが三つ重なったので、息子三人、娘一人の四人の子供たちの家族計十八名とともに、お祝いに伊勢・志摩へ観光旅行を計画してくれ、賢島と合歡の里にそれぞれ一泊して楽しい思い出をつくってくれました。

素晴らしい景色と、海の幸に恵まれて、家族が一つになって語り合ったり遊んだり、そのうえ子供や孫が一人も欠けず、欠席者もなく、健康の有難さを楽しみかみしめ感謝いたしました。

ただいま、夫は私立大学の教授として化学を専攻いたしており、私は六十ならぬ七十の手習いで、昨年から茶の湯、手芸という好きな道に、余生を楽しんでいます。

何と申しまでも一にも二にも健康が第一の幸せとつくづく痛感しつつ、日々を心がけております。

(五〇・一〇・三〇)

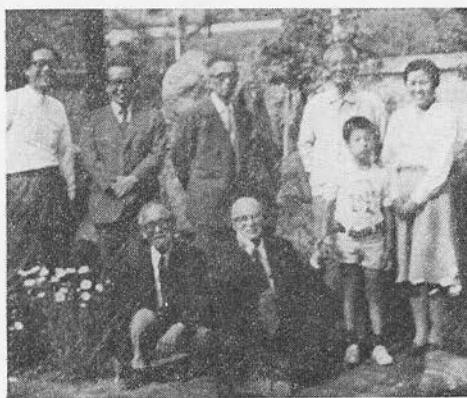


白子の里の 山莊清談

常岡文亀・幹彦父子画伯一家は、前年の晩秋、住みなれた立川市から埼玉県飯能市白子のひなびた山村の住人となって転居された。長らく宿願に悩まれていた文亀画伯も、この地に移られてからは、山のみにどりと、澄み切った空

気に包まれた静かな日常で、すっかり健康を回復されたとの便りがあった。

文亀画伯には、「山ざる」毎号に華麗な表紙画を寄せられているので、そのお礼をかねて、快方のお祝いに、郷友会有志が何うこととなり、さる五月のなかばの晴れた日曜日、車を飛ばしてお訪ねしたのであった。



一行は西川政一長老を始め、渡辺金三、須原清、渡辺隆男の諸君と私。飯能市街を抜けると、武甲山系の山なみが清流の両側にせまり、農家の点在する白子部落に着く。新居は閑静な木立と、巨大な巖を配した前庭に建てられた蔵屋敷である。

常岡一家総出で出迎えを受けて屋内に入る。久瀾と健康を祝し、やがて夫人心づくしの山菜料理に舌鼓を打ちながらの時を忘れての山荘清談が尽きない。

山峡の夕暮れは早い。暮色が漸く部屋に忍ぶころ、名残りを惜しみながら東京に向った。心あたたまる往訪の一日であった。(写真Ⅱ 白シャツの四人が常岡氏一家)

山峡の梅たわわなる画房かな
山の幸幾曲りせる川流る

竹水

”

杉山を背にいくらかの柿紅葉

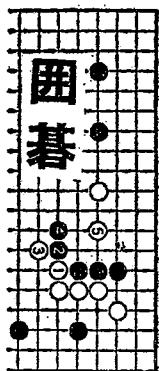
幹彦



(竹)

囲碁 二 題

碁の魔力



坂上勝郎

(氷上)

「ウチの目の黒いうちは、碁なんか絶対させへんデ」といつていた母が亡くなって、もう十六年を経てしまいました。

棋力のほどはどれくらいであったのかわかりませんが、村役場の助役を一時務めたことのある祖父がたいへんな碁好きで、誰かれとなく招じ入れては、烏鷺をたたかわせること深更に及ぶという日々を送っていたそうです。

嫁である母は、棋客達の茶菓の接待に寝もやらず、ときには早晩に至る熱闘のおつきあいをさせられ、碁へのうらみが骨髓に徹したようであります。

さらに悪いことに、父も碁キチの部類で、このほうは品性悪く、カ

ケ碁に手を出したりして、母を悩ませていたそうです。

そんなことが重なって、母の碁ぎらいが形成されたのですが、祖父、父亡きあとは、碁盤は漬け物樽の下積みになってしまし、碁石はわれわれ子供達の遊び道具に変身して、この世から姿を消してしまいました。いまにして思うと、もったいないことをしてしまっただけですが、母にとって忍従のつらい思い出の品々であつてみれば、やむを得ないことでありましたでしょう。

裁縫教授や田畑の売り食いで、われわれを育ててくれた母は、何も報われることなく、あの世の人となつてしまいました。全く親不孝なことに、私もいつしか碁石を握るようになっていました。

と申しましても本格的にはじめたのは、つい二、三年前からで、まだ碁力も何級といったところですよ。

余暇時代の訪れとともに、碁・将棋に一大ブームが巻き起つて、女性や子供たちの間にも愛棋家が多く見られるようになってきました。電車に乗り遅れまいというのではありませんが、碁の持つ不思議な魔力には、単なる道楽以上のなにかがあるように思えて、あれほどまでに母をかたくなにさせた碁とは、一体なんであるかを追求しているこのごろです。

水上碁会には、たびたびお招きをいただいているのですが、貧乏暇なしと、まだ人前で打てるほどの力がない気恥しさが手伝つて欠礼がちですが、どうせやるならせめて初段くらいには達しなくてはと、これから大いに腕を磨いていくつもりでおります。よろしくご指導ください。

(ダイレクトメールサービス部長)

私の碁と同好会

足立 正

(氷上)

郷友会の碁の同好会は数年前にでき、今日まで続いている。初会合を持ったとき、私は当時初段の松山さんにお相手したように思っている。

松山さんは、攻めの鋭い碁風で、注意深くかなり堅く打っているつもりでも、よく大石をとられてずいぶんくやしい思いをさせられた。ところが近頃では、どうにか先番で打てるまでに追いついてきた。私の精進が実ってきたのだと自負しているが、よほど気をつけていないと思わぬ大石をとられることがあるから、松山さんのお年のセイではないかも……。

林谷さんは四段で、同好会の最強である。渡辺さんは一級か初段格だが、私が白を持たせて貰っている。早打ちの名人で、そのペースに乗せられると負けになる。「私は早いがあなたはゆっくり考えて下さいよ」とおっしゃるが、そういわれると、おかしなもので、ゆっくり考えてもおられず、ついつい早くなつて、やられる結果になる。おかしなものである。

吉竹さんは「お助け、おたすけ」と声をあげて来られる。苦境に立つつといつてお国ことは出るのだろう。ユーモラスな碁打ちである。昨

年秋に倉敷へ引越されたので、これからはあの声も聞くことができなくなつて、さびしいことである。

藤田さんは対局成績がともいい。でも私には勝味がない。それをつたいそうくやしがられている。私の勝星はあまりよくないから、藤田さんからはたくさん勝星を貰いたいと楽しみにしている。

同好会の会場は赤坂で出発したが、その碁会所がマージャン荘になつたため、八丁堀の勤労会館や赤坂の高級サロンに変わつたり、その都度会場を変えてきたが、昨年は市ヶ谷の日本棋院会館に落ちついてゐる。

毎回、皆さん、勝ち負けは二の次で、楽しくやつていられる。

氷上囲碁会報告

氷上囲碁同好会は、別表のとおり五〇年は四回、市ヶ谷の日本棋院五階の日本間で開催しました。

落ち着いた対局場で、心ゆくまで午後ひとときを楽しむことができました。

どうか同好の方は是非ご参加ください。友人・知人をお誘いくださつても歓迎します。

ご希望の方は、松山幸逸、足立正のいずれかへご連絡ください。ご案内状を送ります。

50年氷上囲碁会年間成績表

月	日	50・3・8	6・14	9・20	11・15
		勝 負			
吉	竹	2—3	1—3	1—5	—
渡	辺	2—1	4—5	5—5	5—4
山	本	3—2	1—2	—	—
足	立	3—3	2—5	—	4—4
下	中	2—2	—	2—7	—
三	沢	4—2	3—1	6—2	—
上	原	5—0	4—1	4—2	5—3
川	畑	4—3	3—0	—	6—2
林	谷	—	3—4	—	—
坂	上 兄	4—3	2—5	6—3	1—7
坂	上 弟	3—2	4—1	—	—
松	山	2—4	3—0	5—3	4—7
藤	田	—	4—2	6—3	4—4
荻	野	—	1—2	3—2	—
小	林	—	2—2	4—5	6—4

芸術選奨に輝く

——女流俳人・細見綾子さん

芸術選奨文部大臣賞

細見綾子殿

あなたは句集「伎芸天」に於て優れた作風を示し我が国の文学界に著しい貢献をされました よってこれを賞します

昭和五十年三月二十四日

文部大臣 永井道雄

畦焼の香を伎芸天の膝下まで
秋篠へ夕畦焼の火に追はれ
雪止んで目ざしを給う伎芸天
女身仏に春剣落のつづきをり
昼は晴れ夜は星が出て年の暮
右の句は青垣町出身の細見綾子さんが四十九年に出版された句集「伎芸天」の中の句である。この句集が五〇年度の芸術選奨「文部大臣

賞」受賞の作品集である。

綾子さんは松瀬青々主宰の「倦鳥」に昭和五年に初投句してから、四十数年俳句生活が続け、二十二年以来から俳誌「風」を主宰して今日に至っている。その間「桃は八重」17年、「冬薔薇」27年、「雉子」31年、「和語」45年、そして四十九年の「伎芸天」等の句集と随筆集を刊行している。たいへん地味な俳人といわれている。

能村登四郎の評によると、今日に至るまで「青々の門を叩いた頃のういういしさが失われることなく続いている稀有の作家だ」という。また「この作家の不思議さは……俳人として他の影響によって作風が変わっていくという形の作家ではなく、初志一貫の作風で押し通している感がある。……芯の強い作家で、地味であるが豊穡さをもっている」とも評している。

俳人でこの輝ける芸術選奨を受けた者は今回で二十五回になるが、文学関係では四十人が受賞されている中で、俳句部門はさる四三年の故石田波郷以来で、まことに珍しい受賞といわねばならない。

現在いわゆる俳人は多く、それぞれ多彩な活躍をしている中にあって、細見綾子さんのような、地味でつましく、一筋に俳句に精進している存在が受賞されたことは、俳句界にとっても喜ばしいことである。

またわれわれ同郷から、西山泊雲について細見綾子さんの存在は大いに誇りに感ずる次第である。

(註)書名の「伎芸天」は、天平時代の名作で、奈良秋篠寺の仏像、女身仏である。



華やか受賞祝う会

細見綾子さんの五〇年度芸術選奨文部大臣賞の受賞祝賀会が、昨年五月一日東京会館で華やかに開かれました。私もご案内を受けて参加しました。

久しぶりの快晴でお濠の若柳がそよぎ、お祝いの日にふさわしい情景を呈していました。会場には発起人の水原秋桜子、富安風生、山口青邨、山本健吉さんの俳人大家をはじめ、各界の名士を交え、広い

ロ－ヤルルームを埋め尽くしていました。会は安住敦さんの司会で始まり、水原さんが「伎芸天」の句の、

女身仏に春剝落のつづきを

をとりあげ「俳句の性能を極度に発揮した見事な句で、とりわけ「春」という季語の使い方が実に見事で、細見さんのお人柄の上品さがただよう傑作で、おそらく十年二十年経ってもこれほどの句は出ないだろう」と祝詞を述べられたのを皮切りに、祝詞が続ぎ、乾杯のあと、戸田芸大教授の独唱などがありまして、パーティは最高調となりました。

最後に、受賞の喜びをふくやかな顔一面にただよわせた細見さんから次のような謝辞があつて、祝賀会は滞りなく終りました。

ここで私はこの輝かしい榮譽を同郷の皆様とともにお祝いし、喜びを共にしたいと思ひました。

(植村章子記)

謝 辞

今日の私があるのは俳句の作用、俳句のなせるワザによるものだ——と強く感じるようになりました。俳句の側に私に手をさしのべて私を道づれにしてくれるのです。この度の受賞はそういう俳句に對する私の恩返しかと思ひます。俳句に對して報ゆることができた、ちょっぴり安心しております。これからはより強く、より深く俳句と手を組んでやっていきたいと思つております。

和歌

渡辺久子（旧姓池上）

（氷上・石生）

美しい表紙の会誌、いつも楽しみにしています。日本画の大家を表紙にしている機関誌は「山ざる」だけだろうと、大切に保存しております。折り折りの歌をお送りいたします。

*

雪分けてつめたき指に七草を摘むならはしを娘にはつたへず
何の来て啄みたりやピラカンサス赤き実失せぬ雪の朝に
わが髪かみの白くなりしをいたはりて髪撫かみづる吾子はいまだ十一
細き針のめど定めかね吐息せりしのびよる老のたしかなる証
山ごぼうのむらさきの実にてたなごころ紫にして子等は帰り来
南天の葉毎に小さき玉露の干ぬ間しばしの朝ばらけかな
しぐれ降る櫓うしの梢に木枯しの吹き残したる枯葉二ひら
穂芒ほすきの穂もいつしかに飛び散りてしぐれかそけく落葉打つなり

——吾子の青虫を養ふに——

蝶の羽の模様をすでに背に持ちて青虫はけふも山椒の葉喰くむ
はじかみを日毎夜毎に喰みいたる青虫ははやもさなぎとなりぬ
かそけくもさなぎの命うつろひて揚あげ羽の蝶はいまし羽化せむ

——三島忌に 古きノートより——

身の丈の合はぬ召し物召すとき大いなるみ魂の最後の演出
密度高き魂を持ちし人なりと現世の表現をあらためてみる

俳句

由良洋太郎

（市島・梶原）

（新年の本郷・神田あたり）
新年の空へ東大時計
新春や黒き鳥居に艶新た
万年青の実赤き明神裏の怪
竜の風水も買える初詣
魚がしと槽に太字や寒の水
石焼きいも曲る湯島の裏小路
抱き上げて絵馬吊らせお初詣
手飴師の手甲新たやお正月
（家庭の近況）
一本の乳歯が覗く初笑い
寒月へ子の渡欧機の灯がのぼる

足立あつ子

豆盆梅紅濃し樹令三〇年
雲湧きて盆栽棚も秋の色
初景色千葉の郊外視野広し

（註） 作者は飯田蛇笏師直系

本の紹介

『回想と覚書』

——上山 顕著——

著者は、ご存じ福祉社会の目玉商品である「社会保険・労働保険」行政に、後半生を生き抜いたベテランである。その著者が、厚生、労働両省の中枢に在職中に、発表した文章をまとめて出版したものである。

本書は三部に分け、第一部は随想風のもの、第三部は記録風のもの、そして第二部では著者の趣味として永年にわたって打ち込んで来た美術鑑賞にゆかりの文章をまとめてある。

福祉国家の建設が今日の急務として、猫も杓子もこのことはを口にしなければ夜も陽も明けぬ現在から見れば、著者が今日までこの問題にとり組んで苦勞されて来た跡が鮮やかに回想され、感慨ひとしおである。

示唆に富んだ幾多の教訓と問題の奥深さがひしひしと感じられ、すこぶる時宜に適した文獻でもあらう。

第二部の美術鑑賞、とくに美への開眼にいたる経緯はまことに興味深く、また、著者のやきものに對する鑑識眼の高さはただただ敬服の

外はない。

本誌に寄せられている「柏原町高見出土の宋代青磁碗」を読まれた方はなるほどと察せられると思う。(B6版・P三二六。非売品)

(竹水)

『東中風土記』

——くらしの今昔——

東中という部落は現在は春日町に属しているが、人口わずか百三十戸程度の小村である。その部落の今昔をあれこれ二十二章に分けて書き綴ったもの。

この本に若干でも価値を認めるとすれば、水上郡一帯の民俗というか、農民のくらし振りが、よく調べられ、集められてあるということであらう。何しろ八十歳を超した老人たち(村の文化研究会員)の村に對する愛着の結晶だと考えれば、ご苦勞さまとその執念に敬意を表したい。

なお、本書は郡内各方面と春日町出身の郷友、知人に贈呈したが、なお数冊の残部があるので、ご希望の方は一応お申し込み下さい。水上郡春日町東中松山慶太郎、または松山幸逸宛。

(A5版・P一四〇、非売品)

おみせのよもやまばなし 商店経営初步必須要項 [3]

村上末吉

(春日)

都会人はなんとなく盛り場を好む習性があるように思われる。故郷がよいというので帰省するのだが、三日もすると飽きて東京へ帰ってネオンの灯をみるとホッとするような気持ちになることも疑えない心理である。目的なしに盛り場を歩いてみたいという気持ちは、誰しも持っているに違いない。

百貨店について述べてみよう。百貨店は人口二、三十万人に一店といわれる通り、必ずといってよいほど盛り場の中心をなしている。デパートメント・ストアは直訳すると部門別販売店となる。そして役所のことは大型小売店に属している。部門別販売店または大型小売店といってもピンとこないが、デパートというとなくしくつくり来る所に、実は大きな意味があるように思われる。

近所の店で買うよりも、どうせ買うのならデパートでという心理が働く。それはデパートの包装紙が大きな意義を持つているようである。どんな小さい商品であっても、たとえ瓶詰の酒のように同じ質のものであっても、デパートの包装紙で包まれたものは格を高めるといふ機能をはたすように思われる。これは明治以来長い間に培われて来た高級品を扱っているのがデパートであり、間違いない良質品を保

証しますというレットルの代わりとして、包装紙が代表されているからではないだろうか。

都内のデパートが最近包装紙をかえた。感覚は近代的だが、紙質が悪いこともあって評判は余りよくないようである。前の包装紙の方がよかつたというのである。モダン感覚を開発する意欲は理解できるが、先ほどいったように、デパートの格調と良質品を保証するというイメージを失ったからである。

次に店員のサービスである。デパートの店員は「ほほえみ」が売り物であらう。入口から出口まで店内にはほほえみが満ち溢れていることはデパートの特徴でもある。私はよくデパートのWCを利用してもらうが、普通一階にはないのでエレベーターを利用してもらう。エレベーター扉前の案内嬢もエレベーター嬢も「毎度ありがとうございます」といって丁寧に頭を下げてお礼をいってくれる。さすがWCだけの場合は気がひけるが、店員はそんなことにお構いなく、差別なしに心よくほほえみを与えてくれるのである。

商品を買に行ったときでも、何か買わないではおれない専門店とは違って、自由に店内を歩けるし、束縛もされない。品物を比較することも自由だし、選沢しても気に入らないときは買わなくてもよいのである。デパートの店員はそんなお客様の方がままをほほえみをもって見守っているような寛大な姿勢が要求され、そんなことを希望しているのがデパートに行きたいと思う客の心理を大きく左右しているに違いない。

盛り場が集まる人間の心理として、デパートではこれとは全然別の心理を満足させる要素もあるように思われる。それは見て廻る楽し

み、華やかな商品によって慰められる、豊富な商品によって、貧しさから開放される心の楽しみを満足させる一面ではないだろうか。生活に疲れた主婦たちが、たとえ買えないにしても、商品群のなかに身を憩ったとき、何となく豊かな気持ちになる一瞬の慰みを与えてくれるのではないだろうか。

それはまた別の心理を確認しているのかも知れない。たとえその商品は買えなくとも、その商品の流行性を確認して、自分の意識が時代の中で遅れないように、その商品を通して見定めているということである。身につけている物、持っている物はそうでなくても、陳列されている商品を自分の意識の中に定着させて、自らの理解をその商品と同じ所に位置づけようとする都会人の本能といえるべきものであろう。

デパートは物を売る所よりも夢を売る所であるといわれるのは、そんな理由からではないだろうか。したがって従業員は楽しい夢の世界にかしずく召使いのようなもので、ほほえみを売る乙女なのかも知れない。

別のいい方をすれば、情報を交換し、情報を売る所ということができる。都会人に話題を提供し、関心を売る所だということもできる。

原稿枚数の都合で話を一転して、個人専門店のサービスについて述べましよう。

岡部冬彦（『オール読物』八月号）の「たかが湯豆腐のこと」で次のようなことを書いている。

食べ物屋であれこれお節介をやかれるほど腹の立つものはない。たとえば天プラを天ツユにつけようすると、職人が「あつ、それはアジシオで食べていただきます」とくる。入院して医師の指図を受ける

ならともかく、天ツユであろうとアジシオであろうと、命にかかわることではあるまいし、こっちはそのほうがうまいと思っただけのことだから、よけいな指図はしてもらいたくない。

京都で湯豆腐を食べようとすると、女中が「それはまだ早い」とか「薬味は後から入れろ」とかいちいちシタリ顔で教示する。たかが湯豆腐、いかなる玄妙な味が潜んでいるのか知らぬが、食い方を教えてもらうまでもない。

大阪空港のすし屋で鉄火巻きを頼んだ。スダレで巻いて六つに切ったものだが、食べ始めたときとたん怒り心頭に発した。職人が当人に聞えよがしに「スダレで巻いた鉄火なんか、いなかっぺの食うもんだ」といっているのである。

客のやり方が気に食わなかったら、ゼニはそっちのもの、食物はこっちのもの「お勘定は要りませんからお引き取り下さい」というのならスジは通るが、文句はつけておいてゼニは取ろうというんじや、天道是非が不届き極まりない——といったものである。

食事をするというのは、栄養をとるということだけでなく、楽しむという要素がある。客に楽しい雰囲気を与えて満足してもらうために、職人や従業員は、客の心理をよく知っておかなければならない。

おすし屋で客がお茶というと、店員は「上り」という。お醤油というところ「むらさき」に、「妻揚げ」というところ「黒もじ」にいいかえる等は、いかにも専門語として平気なのかも知れないが、いった側の客にしてみれば余り感じのよいものではない。客に恥をかかすような、客に訂正を申し込むようなことはや姿勢が随所に見られるが、注意したいことである。

（桂建築総合研究所所長）

この欄には昨秋の総会通知の御返事に寄せられたものを中心に収めました。従って日時の推移につれ若干変わっているかと思えます。その点ご推量願います。

足立 守久氏（青垣）この度店舗移転に伴い、東京つるやチェーンを退会して、社名（株）足立守を（株）ファッションローゼと改名。

常岡 昭氏（粕原・上小倉） 医院開業後二年あまりになりました。地域社会の医療に役立てたいと努力しております。最近、東洋ランを觀賞しつつ栽培に興味を持っています。来年はどんな花が開くか楽しみです。

芦田 坦氏（青垣）日本電気停年退職後芦田・磯部・後藤特許事務所を開設、あしかけ

天野 清子さん（氷上・谷）キレイな空気の国分市に住んで二年になります。毎日家事に追われ家族の健康管理に努めております。

毎週一日は娘の中学のママさんコーラスに参加、楽しんでます。

足立 一郎氏（青垣町議会議長）健康で豊かで明るい町づくりのために一途精進。

野村 虎男氏（柏原）四十年勤めた明治乳業（株）を五〇年四月退職しました。成人学校や都の訓練校へ通ったり、また敬老の日には山中湖畔の高齢者のマラソン大会に出場したりですこぶる健康です。二月に七〇歳となり、子供たちから古稀を祝って貰いました。

畑義博氏(春日・多利)さる八月十八日急性胆のう炎のため武蔵野赤十字病院に入院、九月十日手術、胆石を除去しました。目下静養中です。

林田 孝子さん（柏原）十一月二日に柏原

へ母の三十三回忌に参ります。久しぶりのふるさとを楽しみにしております。生田節江さま、永井希代子さんのお宅など頭に浮かんでおりますが、時間がありますか、どうか。

久石幸太郎氏（柏原・屋敷）十余年、千葉臨海工業地帯の日本板硝子の間接部門で働いてきましたが、さる八月に営業第一線の東京支店に転任を命ぜられました。東京は働く場所であっても住む所ではない。住むには丹波が一番だとつくづく思っています。

前田 和秀氏（相原）昭和三十一年九月以降自衛隊中央病院整形外科に勤務、同四十六年十二月理学診療科部長に就任して、現在リハビリテーション医療に取り組んでいます。国家公務員共済組合連合会三宿病院整形外科、石和温泉病院などでもリハビリテーション医療について勉強しています。

村上天憲師（氷上）毎週日曜日は參禅会ならびに法話の集いをしてあります。その外日曜日を利用しての檀徒の法要が重なりますので、郷友の会合にも出席できかね、残念に

思っております。

足立 範雄氏（青垣・佐治）商売（つるや洋装店）順調に、健康も上々、多忙な毎日を経過しております。

足立 治氏（青垣・杉谷）とにかく元気で、何より健康第一に、毎日を大切に過しております。

植木 伍鹿氏（山南・和田）郷友会の催しに出席したく希望しつつも、寄る年波に何かと故障ができて出席叶わず残念です。今年満八十一歳。郷友の方々ともお顔見知りも少なく、自分の身体の調子や天気の場合で自信もつかず、また皆様にご迷惑をかけてはと、遠慮がちになります。

植木 英吉氏（山南・和田）六十歳を越えました。子供たちも三人とも大学卒業後、それぞれ就職し、娘は嫁入って孫が四人もできました。最近、画をかくことを覚えいろいろと楽しんでおります。

足立 順治氏（水上・井中）さる七月母の二五忌の法会に故郷に参りました。鐘が坂のドライブインの主人が知人なのでそこで中学の同窓数名と会食しましたが、あんなどえらいドライブインは始めてで驚嘆しました。また十月には円通寺の芦田玉仙師晋山式に参列しました。お寺は私の子供の時より随分古びていますが、池の水、椎の木、そして寺庭の隅のお地藏尊は今も変わっていませんでした。なつかしいものでした。

余田 進氏（市島・中竹田）いろいろ問題はありますが、元気で頑張っています。医薬品のご相談、ご用命がございましたら、承ります。

余田 真雄氏（市島・久良部）昨年末家内が病氣入院中、留守居役の母が九月始めから風邪をこじらせてこれまた入院、やもめ暮しの家と病院と仕事の心落ちつかぬ毎日が続き、病入の方は大分よくなってやっと安心しました。

鴻谷喜代治氏（青垣・佐治）さる十月から、

東京はかり工業協同組合の事務長に就任し、茨城県下妻市の組合の社宅に起居し、土曜日夜帰宅、月曜日出勤の生活が続いています。筑波山のふもとに近く、空気も水も、米もうまく、老来、生命の洗い直しをしています。

小谷 寛治氏（柏原・古市場）国鉄をやめて十二年、六四歳です。故郷の皆さんが恋しい年齢です。

東後 一美氏（加西市）満七三歳、一日も勤務を休んだことがありません。ご放念を！

生駒 篤郎氏（柏原）さる十月十四日から柏原―園部―京都―神戸―倉敷へと、おめでたの参列から墓参―墓参―旧友との会合、それに年一回倉敷での懇親会に参り、二十二日に帰郷しました。その間出身小学校も訪ねました。

今年の残暑には少々弱りまして、体重も五キロも減りましたが、秋になって体調も回復、旅行にも出られるようになりました。

荻野定一郎氏(春日・多田) 昨年の大病も約半年の療養で全快いたしました。が、まだ月に二回医院へ通い続けております。何分老い先も短いことですから、自重自愛しております。

十一月四日から一週間、奈良方面を訪ね心ゆくまで彼の地の風物を探賞しました。これも余生の短いための欲ばかりかと存じます。名の高い古仏像や建物を心の中に確かめておくのはもちろん、あまり名の知られぬ、かくれ寺や、車も通らぬ古い道を歩いて、本来の静かな姿に接して歴史をしのんで来しました。

菅野 きぬゑさん(柏原) 丈夫で息子たちと同じ屋根の下で、別世帯で仲よく暮しています。十年あまり謡曲に親しみ、上達はいたしません。が、お稽古の仲間と忙しく楽しんでおります。

小寺 確郎氏(青垣・東芦田) 今年は三度も丹波へ帰りました。旧柏原中学のクラス会、旧柏中の陸上競技部OB懇親会とも一つ。丹波弁を満喫して来ました。丹波での話の中に「車が増えたが、轢かれているのは、

狐であり、イタチであつたりムジナである。最近はまだイノシシがよく出て、栗の実を喰われて困っている。ときどき猿や鹿も出没する」など聞くと、さすがは丹波だ、丹波は健在なりとつくづくうれしくなりました。

大江 範子さん(東京) 私の父母は佐治の出身ですが、私は蒲田の生まれで、戦時中父母の出身地に疎開し、戦後上京して今日に至っております。従つて郷友会員といえるかどうか……。とにかく結婚して二十一年、二十歳と十八歳の二男あり、表記(葉山のつるや洋服店)の父の店につとめ、その合間に次男のPTA役員をしております。

係よりII郷友会は出身者および縁故者、または入会希望者をもつて構成しておりますから立派な会員です。疑念など起さず今後引続き協力下さい。

大西 俊治氏(春日・松森) マスコミからは排ガス公害を撒き散らす大衆の敵のごとく宣伝され、かつまた激烈なシェア争いの渦中にあつて悪戦苦闘を続けております(埼玉日産モーターズ経営) 一方僻地の隅々の家庭に

までしっかりと根を張ったことの喜びをしみじみ味わつております。

年輪を重ねるとともに老妻・息子と三人で、混乱を続ける政局とは裏腹に、わけ距てのない太陽と清浄な空気の恵みの中で、庭の柿の色づきに秋の深まりを感じつつ静かな毎日を通しております。

大野 渥子さん(山南・上滝) このところ旅と野山をなるべく楽しむことにして、どうしようもない老化に対抗しております。「山ざる」の発展をお祈り申し上げます。

音無 太美子さん(春日・黒井) 夫がこの春逝去いたしました。ノロケではなく、亡くなれば余計によい夫だったと思います。困っている人から頼まれればよく世話をしてみました。酒もタバコも吞まず、三人の子供を皆かたづけて、長患いでなく、看病もほとんどに、季節のよい時を選んで旅立ちました。肉体はなくとも生き通している主人の生命を信じて悲しまず、感謝と笑顔で暮らしております。

息子が同居をすすめてくれましたが、今の

ところ左記へ住居を移し、引き続き通勤しております。よろしく。

〒135江東区牡丹三一一九一 ときわ荘内
(電話は従来どおりです)

小林 武治氏(水上・新方) 国学院高校校長のままで、さる三月の役員改選から理事長の業務を代行しております。このほか、私大連盟理事、私学研修福祉社会理事、栃木短大理事、大学基準協会評議員などで多忙な毎日です。

勢川 武彦氏(山南・谷川) 現在はオーストラリア国ウイロビーの大阪商船三井船舶支店に出張中です。五一年五・六月ごろに帰国の予定。

杉岡 明美さん(水上・南油良) 毎年お盆に夏休みの子供を連れ帰省するのが、ここ数年來のわが家の慣行でしたが、来年からは春休みを利用して、ツツジや山椿で色どられたふるさとの春の山々を賞でたり、ワラビ狩りを楽しもうと、今から心待ちにしております。そのころにはまた「山さる」も発行にな

るようで楽しみです。

篠原 よね子さん(青垣・佐治) 郷友の会合に一度伺いたいといつも思うのですが、何となく勇気が出ません。

今はフランス刺繍の教室を開いております。お蔭さまで忙しい毎日を送っております。丹波でのきびしい生活環境が、いまの私を力づけ、どれほどの力になっているか、都会育ちの私だったらここまで頑張れなかったのではないかと、幼い日をなつかしく思い出しております。

下中 昭男氏(山南・谷川) 十月一日付で朝日ビル(在籍のまま増田(在籍)に出向常務取締役)に就任しました。大阪と東京を行ったり来たりしております。増田(在籍)は酒造メーカー二社(関西) 酒類卸業(東京、大阪北、同南、京都、神戸、姫路) ホテル三つ(片山津、修善寺、沖繩) 飲食店(新住友ビル) を経営しており、目下勉強中です。

瀬々 妙子さん(柏原) 広告制作会社として老舗を誇っていた会社が昨年倒産、組合結

成、失業保険に夢中に取り組み、漸く仲間数人とミニサイズの同業会社を設立しました。

よりによつてこの不況の際と思つても、この道を行くより他はないというところです。長男が漸くこの春やつと小学一年、長女が四年目の保育園児、まだまだ道遠しの感で、ジツとわが細指を見えています。

千種 倫幸氏(山南・谷川) 長男の七五三を祝いました。伴仲先輩のことはアーバンライフ設計の原田君からお話を伺ったことがあります。

谷 達雄氏(柏原) 一昨年は胃の手術をし、昨年は腸を患い、それまで六十年間、全く頑健そのものの体に一度にガタが来た感じです。その後、体をいたわりつつも気持はしごく元気です。

田 健一氏(柏原・下小倉) 私は長岡市(長岡工専校長) にありますが、長女も長男も大学に進学、東京の留守宅です。

谷垣 尚氏(柏原) 東京に移り住んで五

年が過ぎました。妻富子（相原）長女は高一、次女は小三、長男は小一で前途遼遠というところですが、幸い一家は健康で私も長生きする積りで頑張ります。私は出張が多いですが神宮前の好い環境です。郷友の方がお訪ね下されば妻も喜びましょう。

梶浦 浩二郎氏（揖保郡）小生満七十七歳、幸いに頑健です。

川勝 小里さん（水上・本郷）「山ざる」について毎号思うことですが、会員名簿を大変なつかしく拝見していますが、旧姓と年齢などできる限り書いて頂ければと思います。知っている方のような、知らない方のような気持がして連絡してみたいような、一方違っていたら？ と思ったりします。

係より出来る限り出身地区名、旧姓、年齢、勤め先など入れるよう努力しておりますが、記入して頂けない方がありますのでなかなか整備できかねているので残念です。

波多 洋三氏（春日・棚原）十一月五日は

旧柏中二十六回生の阪神在住のクラス会を開きました。世話人は徳義芳夫、柴田梅太郎、芦田実、それに小生の四名、会場は宝塚の丹波出身者の中国料亭「大八車」で。

森田淳二郎（多紀・福住）まさ子さん（水上・成松）本年四月、青山のグリーンギャラリーで「丹波布」の個展を二人で見ました。まさ子の柏原高女時代の同級生・西垣和子さんの力作がたくさん並べてありました。まさ子とは約四十年ぶりの再会でした。私は初めて見る丹波布に目を見はりました。決して素朴で素晴らしいと思いましたが、実際に着用するには年若だと感じました。

息子たちが大分大きくなりましたので、ゆっくりと、しずかに結婚三十二年目の秋を味わっております。私たちは多紀、水上の両郡結合です。夫婦会員というのは割合少ないようで、その点稀少価値を発揮したいと考えております。

畑 光氏（篠山）丹波では市島の西山酒造と篠山の丹波古陶館とが共同で「古壺新酒」という季刊のパンフレットの出版を始め

ています。私はこれに「多紀郡と水上郡の具体的な提携の場として大いに頑張つて欲しい」とのことを書いて送りました。

丹波、丹波と叫びながら、鐘の坂を境に文化の交流がもう一つ盛り上らない時代は過ぎて、「丹波は一つ」の交流に「山ざる」の皆さんのご協力を期待したいものです。

高見 安亮氏（春日・棚原）「山ざる」を毎号楽しみに読んでおります。神池寺縁起、深尾女史逝く、望郷之賦など、興味深く読みました。

久保 豊氏（山南・岡本）横浜市港南区日野町二八四三—二 電〇八三二—六一五〇。勤務先も太陽神戸銀行上福岡支店長（電〇四九二—六二—三三二）に栄転さる。

吉岡 植文氏（山南・和田）家庭の都合で三年の予定で左記へ転居いたしました。大阪環状線で天王子駅乗り換え、近鉄南大阪線今川駅下車三分。転居先〒543 大阪市東住吉区今川町三ノ五七 電〇〇六—七〇—二一八五三七。

佐藤 菊子さん（水上・谷村）家族一同健康で宣教の業を許され喜ばしく思っております。さて、

夫・実兄開拓伝道五年の年。昨年は多くの方々が転住され礼拝は激減、たいへん激しい年でした。反面祈禱会と日曜学校が増え、教会の土地建物基金予約献金が始まり、第一期五ヵ年計画としてこの群の祈りが結集されたことは感謝の至りです。ご加禱下さい。

妻・菊子日曜学校と学習会小学校の教師、毎週火曜日に家庭文庫を開いての読書普及。婦人部の方々と手作りのパンやお菓子の研究、三人の子供の父母会など多忙の毎日です。その中であって宣教と教会形成に仕えることが願いです。

新入会

関 正治氏（山南・久下）〒182 狛江市和泉
三六六三 二一五二三〇五 電〇四二四一
八四一五六二一。

森田淳二郎氏（多紀郡・福住）会員まさ子さん（水上・成松）の夫、実業の日本社事業出版部長。

芦田 留治氏（水上）田 季晴氏紹介。〒500 豊中市豊南町二一六―四 医療法人豊済会小曾根病院理事長代行。

転居・転任

恒川登志子さん（旧姓・岸田）今般郷里へ引揚げ帰国され余生を送られる。〒689―32 兵庫県水上郡山南町和田 電〇七九五七―六一六四五

久石幸太都氏（柏原）杉並区上井草三一―五一―一 電三九五―八六六七・日本板硝子（働東京支社へ）。

松本 金吉氏（柏原）〒182―02 多摩市貝取一七〇三 電〇四二三―七四一三六八八へ転居。

由良洋太郎氏（市島・梶原）〒935 所沢市荒幡九四一―一二 電〇四二九一―三三八五九二へ転居。

吉竹 貞治・きぬさん（柏原）〒710 倉敷市浜の茶屋二一四―二七 電〇八六四―二一七九〇四へ転居。

足立 守久・足立利多加氏（青垣）〒221 横浜市神奈川区大口通り一〇（働ファッションローゼ内へ）。

三宅良夫氏（春日・棚原）川崎市に居住されていたが、令息のゼンソクを心配され、さる十二月転地の意味も含め下記へ転居。〒145 大田区南久ガ原二一四―七久ガ原ホームス五〇一 号電七五四―四二七八。

余田 貞雄氏（市島・久良部）丹但社社長は五〇年七月、友人の南海工業KK社長石亀義明氏の推せんで同氏の関係会社清水印刷紙器KK取締役に就任され、平版、凸版などの印刷および紙器の事業に参画されている。

田辺 善人氏（柏原）さる九月東京施工K代表取締役を辞任、同社会長に就任され、同時に日本リックウイルKK取締役工部部長に就任さる。

小田 晋作氏（柏原）さる五月日本経済新聞社東京本社整理部より、同社大阪本社社会部へ転勤、吹田市竹見台二一C五一六〇一へ転居さる。八年ぶりに古巣に帰ったのこ

訃報

（謹んで哀悼の意を表します）

荻野 行雄氏（春日）脳出血のため療養中五〇年三月二十五日永眠さる。享年七四歳。（本文記事参照）。

芦田秀雄氏（水上）東大病院にて療養中、五〇年九月七日老衰のため逝去さる。享年八一歳。

同氏は生前、本会顧問として永年にわたり本会発展のためにご協力をいただき、感謝に

堪えない。ここに謹んでご冥福を祈る。

細見 才次氏（春日）四九年十一月二十七日死去さる。享年七八歳。

沖 誼さん（柏原）五〇年五月十五日逝去さる。享年七五歳。

柏陵同窓会は五月に総会

柏陵同窓会（県立柏原中・高女同窓会）は毎年五月に東京支部総会が開催されていたが、さる九月の幹事会で水上郷友会総会が十一月に開催されるのを配慮して、五月にくり上げることになった。なお、同支部では昨年は十月十八日新宿西口住友ビル「あしべ」で三十数名が集まり、ティー・パーティーを開いて、懇親を深めた。

なお五一年度の総会は五月下旬、東郷記念館で開催の予定。

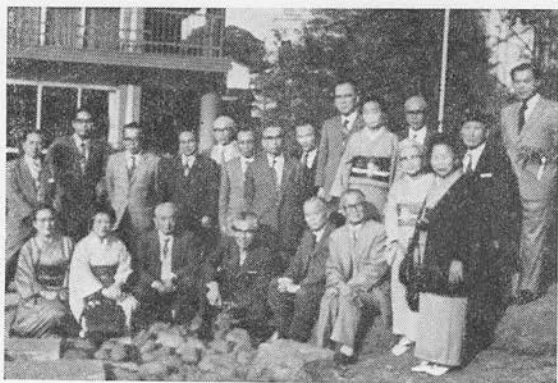


表紙画家紹介▼常岡文龜画伯は明治三一年柏原町に生れ、東京美術学校日本画科を卒業、結城素明先生に師事、母校教授となる。その後文展審査員、大日本美術院同人、日展委嘱等日本画壇の重鎮として郷土出身画家の大御所である。帝展に「鶏頭花」及び「棕櫚」を出品、それぞれ特選「カンナ」は政府買上げの榮譽を受けた。さらにシンガポール総領事館をはじめ在外公館の作品を制作、世界的に知られる。なお文龜画伯の長男幹彦氏も父と共に日本画家として活躍している。

五〇年度総会開く

三氏を新理事に推せん

五〇年度本会総会は五〇年十一月十一日正午より東京原宿の東郷神社境内の東郷記念館



総会記念写真

で開催された。足立会長他会員三十数名出席、足立正君司会のもとに進められ、会務・会計報告(別記)などあつて、新役員に、栗原重次(春日)小寺確郎(青垣)坂上勝郎(氷上)の三君を推せん、満場一致をもって承認された。

それから懇親会に移り、郷里の氷上郡よりわざわざ参列された由良作治(春日)足立一郎(青垣)両氏より近況の報告、出席各会員の自己紹介、所感など、酒杯を交しながら和やかな会場を埋めた。食後前庭で記念撮影を行なつて同三時過ぎ散会。それぞれ附近の明治神宮、代々木公園などを散策ののち楽しい一日を終った。

なお、会場で光山秀子さん(氷上)と永井輝江(市島)さんより「山ざる」の制作費の一部として多額の寄附を頂き、会合費にと足立三治会長より金一封、同記念館より、お酒を頂いたことを記し、厚く感謝の意を表する次第である。

当日の出席者次の通り(敬称略)

足立三治、足立治、足立正、生駒篤郎、上山顕、植村章子、木村つたゑ、栗原重次、小谷正己、坂上勝郎、須田十央子、須原清、

土田直吉、永井常實、永井輝江、野村千里、林田孝子、松山幸逸、前田和市、光山秀子、渡辺金三、渡辺隆男、足立かをる、畑秀夫、瀬々妙子、由良洋太郎、前田和市、谷垣正雄、堀川万次。

(来賓)由良作治(春日町)足立一郎(青垣町)

五一年初役員会

昭和五一年初の役員会は二月六日午後五時より春日建設KK応接室で左記の役員が出席、開かれた。まず足立会長の挨拶のあと有田名誉会長から政局の動きについて興味深いお話があつて協議を行ない、前記のごとく、今秋長寿会員をお祝いする会を開くことを決め、その他懇談を遂げ午後七時散会した。

出席者次の通り(敬称略)

西川政一、有田喜一、足立三治、渡辺金三、伴信次、須原清、山中一郎、永井常實、村上末吉、前田和市、小谷正己、足立誠一、常岡幹彦、足立治、谷垣正雄、渡辺隆男、坂上勝郎、松山幸逸

自 昭和49年10月1日
至 昭和50年9月30日

昭和50年度 会 計 報 告 書

関東氷上郷友会

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	摘 要	金 額	科 目	摘 要	金 額
繰 越 金	振替貯金 現 金	144,261 27,304	出 版 費	山ざる6号 製本印刷他	339,602
会 費 収 入	183名	218,000	印刷通信費	山ざる発送費 封筒等印刷代	81,096
広 告 収 入	会誌山ざる6号広告掲載料	278,000	支払手数料	振替貯金振込手数料	6,435
総 会 費 収 入	10,000×1名3,000×24名 特別会費 3,000×1名5,000×2名	95,000	慶 弔 費	会員梅垣氏他死去花輪弔電料	11,080
雑 収	コックドール会食残金収入 12,340 江間時彦氏より寄付 9,000	21,340	総 会 費	40.11.8 於弥生会館 会場諸掛り及食事代	115,416
			会 議 費	50.2.6 役員会会費徴集 18名 食事代諸掛り 28,110	1,110
			雑 費	丹波新聞新年広告掲載料 10,000 他諸雑費	12,740
			繰 越 金	次期に繰越現金 振替貯金	216,426
収 入 の 部 合 計		783,905	支 出 の 部 合 計		783,905

会費領収報告

▲五一年度分 足立要・同源吉・同誠一・

同正・同玉治・同彊・同幸夫・有田喜一・安達健一郎・植村章子・江間時彦・荻野定一郎・梶浦浩一郎・木村つた多・栗原重次・小谷正己・小寺確郎・近藤敏雄・坂上勝郎・須原清・須田十史子・谷垣正雄・土田直吉・常岡文龜・同幹彦・田季晴・永井常資・同輝江・西崎祥・畑秀夫・林田孝子・伴仲信次・藤原三郎・前田和市・松山幸逸・村上末吉・同大憲・矢本博一・山中一朗・山本忠・渡辺金三・同幸子・同勉・同久子・同隆男・同貴美子(以上四六名)

▲五二年度分 足立源吉・荻野定一郎・田季晴(以上三名)

▲五〇年度分 足立あつ子・同治・同かをる・同要・同源治・同三治・同土郎・同正・同玉治・同彊・同範治・同昌彦・同守久・同幸夫・同義雄・赤松たつ・秋元多美子・秋山一男・芦田秀雄・同重秋・同裕子・天野清子・有田毅・安藤秀夫・同道子・生駒篤郎・泉幸夫・稻次淑子・上田要・同正己・上山顯・

植木英吉・同一夫・植村章子・江間時彦・小川晴道・大木千男・大地富美子・大西俊治・大野渥子・荻野謙一・同定一郎・同武・同英夫・奥谷松治・柿原武司・同庸・梶浦浩二郎・片山日幹・勝野きしの・川勝小里・河津助治・菅野きぬ多・木村つた多・菊地頭三・岸本勇・久保豊・栗原重次・小谷寛治・同正己・小寺確郎・小中克己・小林剛・古藤一・近藤敏雄・佐々木盛雄・齊藤俊一・酒井重男・坂上勝郎・志村勝郎・藤原よね子・柴田勝太郎・須原清・須田十史子・杉岡明美・勢川武彦・瀬々妙子・莊克衛・田辺輝一郎・同善人・高桑良弥・高見嘉都司・同安亮・竹林すま子・竹村政雄・谷垣正雄・同博・同尚・土田直吉・常岡幹彦・同昭・田季晴・東後一美・永井常資・同輝江・中島義則・中山昇・西川政一・西崎祥・野村虎男・同利吉・同千里・波多洋三・同道子・袴塚節子・萩原庸三・畑秀夫・同義博・林谷集・林田孝子・原功・伴仲信次・久石幸太郎・菱田ふみ子・広瀬幸太郎・婦一男・藤尾ち多子・藤田かね子・藤田正雄・藤原三郎・前田和市・三宅良夫・光山秀子・村上末吉・同大憲・室井次郎・森田節子・同淳二郎・同まさ子・矢本博一・山中

一朗・山本清士・同忠・由良洋太郎・余田喜重・同汎子・横山幸三・吉住重造・吉竹貞治・渡辺泰三・同金三・同幸子・同勉・同久子・同隆男・同貴美子・和田菊江・高尾久子・関正治・荻野徑子・東田実・足立寿也・由良八郎・田敏夫・上田二四二・久保田元子・尾上典也・藤原一義・大江範子(以上一五九名)

本会役員

名誉会長 有田喜一

顧問 西川政一・荻野定一郎・生駒篤郎

・小谷正雄

会長 足立三治

副会長 松山幸逸・伴仲信次・渡辺金三

監事 須原清・竹村政雄

理事 横山幸三・上山顯・永井常資・村上大憲・山中一郎・荻野英夫・村上末吉

・前田和市・荻野武・足立正・植村章子・木村つた江・小谷正己・足立誠一・常岡幹彦・高見嘉都司・小林武治・野村利吉

・林谷集・足立治・足立かをる・長富千代一・谷垣正雄・渡辺隆男・(新任)栗原重次・小寺確郎・坂上勝郎

重次・小寺確郎・坂上勝郎

関東氷上郷友会の沿革

本会は明治二十九年（一八八六年）十一月二日、東京神田の料亭において創立の発会式を行なったといわれる。

当時東京帝国大学の学生安藤広太郎（後の農学博士）、同田昌（後の大蔵次官）氏らの奔走によって結成、会長には旧柏原藩主織田信親子爵、副会長に田健次郎男爵（元台湾総督）が就任。会の目的は、東京における郷土出身者の親睦と友情を深めるとともに、郷里氷上郡の開発発展に寄与することにあつた。以来七十余年、幾多の曲折を経ながらも今日まで存続し得たことは、先輩各位の郷土愛のたまもので、とくに井上雅二、矢本平蔵、小谷哲、石橋治郎八氏の功績を逸することはできない。

昭和二十八年一月二十八日、東京新橋駅楼上の「日本食堂」で戦後第一回の「氷上郷友会」が開催された。百名を超える郷友が喜々として集い、戦中、戦後の飢餓と混乱、生死を生き抜いた郷友たちが、相擁して久闊を叙し、熱っぽい雰囲気であふれ、ありし世代の苦

闘を語る感激の大会となつた。

田健次郎会長（昭和五年没）のあと久しく空席であつた会長の椅子は織田信大子爵、安藤広太郎農学博士とひきつがれたが、この歴史的大会において石橋治郎八石橋生糸社長を会長に迎えた。石橋会長は以来十八年間の長期に亘つて郷友会発展に腐心され、昭和四十六年八月、八三歳をもつて逝去された。本会は昭和四十六年十一月、つるや産業社長足立三治氏を会長に迎え今日に至っている。

関東氷上郷友会会則

（名称）

第一条 本会は関東氷上郷友会と称する。

（目的）

第二条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて郷土の発展に資することを目的とする。

（会員）

第三条 本会は氷上郡出身者及び縁故者を会員とする。

（役員）

第四条 本会に左の役員をおく。

名誉会長 一名

顧問 若干名

会長 一名

副会長 若干名

常任理事 若干名

理事 若干名内二名会計担当

監事 二名

（役員の任務）

第五条 会長は本会を代表し会務を統轄する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは副会長の互選により一名がこれに当る。常任理事及び理事は会務を執行する。

監事は会務及び会計を監査する。顧問は会長の諮問に応じ本会の発展を促進する。

（役員の選出）

第六条 会長及び役員は総会において選出する。

顧問は理事会の推薦により委嘱する。

（役員の任期）

第七条 役員の任期は二年とし、重任を妨げない。

（役員報酬）

第八条 本会の役員は総て名誉職とする。

（会議）

第九條 會議は總會と理事会に分ける。

總會は毎年一回十一月に開き必要に応じ臨時總會を開催する。理事会は会長、副会長、常任理事及び理事を以て構成し、必要に応じ会長が招集して開催する。

(會費)

第十條 本會の會費は年額金一〇〇〇円とする。

別に必要に応じ理事会の決定による額を徴集することができる。

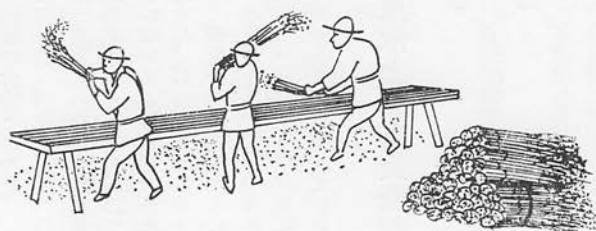
(寄附金)

第十一條 寄附金は理事会の承認により受納する。

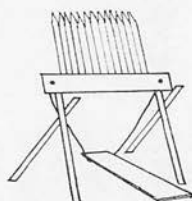
(會計報告、會則の改正)

第十二條 本會の會計年度は毎年十月一日より翌年九月三十日迄とし、會計報告は十一月の總會において行なう。

本會則の改正は總會の議を経て決定する。

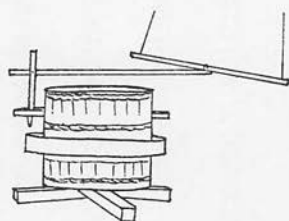


〈脱穀・麦かう〉



〈櫛形稲扱器〉

嫌であるけど
また来ておくれ
鳥も枯木に二度とまる
面白いぞえ
唐竿がちは
上でくる／＼舞て落ちる



〈穀扱器・土臼〉

白は大臼重たいけれど
様が門に立ちや
宙に廻わる

今年や豊年
穂に穂が咲いて
道の小草に米が実る

△東中風土記▽より転載

關東氷上郷友会 會員名簿

足立 明子 千165 中野区松ヶ丘一―一六 〇三八〇―〇五四八

足立 石蔵明 40 千177 練馬区石神井二―三五―一四 〇九九六

一六七〇五 飛鳥建設 〇二六三―三五一
庭いじり(春日町多田) 〇二六三―三五一

足立 一郎 昭2 千180-03 東久留米市八幡町二―一八―八 〇四二二

四―七一―五三〇四、東久留米新聞社自営 盆
栽、カメラ(柏原町田路)

足立 治大1 千229 相模原市下九沢七四五下九沢団地一七―

四―四 〇四二七―七三―〇三三五 日本電
装 〇四二七―七三―〇三三五 日本電

足立 かをる 昭2 千351 朝霞市仲町二―四―一―二〇四 〇四〇

四八四―六一―八三一五 小旅行(春日町黒井)
千211 川崎市中原区新城二六八 〇四四四―七

六六―七六三〇 つるや洋装店主 スポーツ

足立 勲 平大8 千251 藤沢市鶴沼藤ヶ谷一―七―四 〇四六

六―二―一六四六一 川汽不動産(青垣町)
千176 練馬区豊玉北一―九江古田サニ―ハイッ

足立 源治 六〇三 囲碁、マージャン(青垣町東声田)

千211 川崎市中原区今井南町四八〇 〇四四四
一七二―一三三―五 つるや産業 〇四四四

四四―一七二―一六三七―一(青垣町遠坂)

足立 定大6 千190 立川市砂川町二七八六―九 〇四二五

足立 士郎 大12 千188 保谷市柳沢町五―一五―一五 〇四二四

一六三―一六四―一五 旅行、盆栽(青垣町佐治)
千182 調布市深大寺町一〇―二一九 〇四二二

足立 静夫 昭2 千182 調布市深大寺町一〇―二一九 〇四二二

四―八五―一四四〇六 大阪商船三井船舶 〇四二二
上町香良)

足立 順治 明35 千251 藤沢市藤ヶ岡二―二二―一六 〇四六六

一三二―一六―一 詩吟、園芸(氷上町井中)
千113 文京区千駄木一―八―三 〇八三三―二

足立 誠 一大2 千113 文京区千駄木一―八―三 〇八三三―二

三七八 〇三誠社長 〇二五五―一二五一 ゴ
ルフ(青垣町佐治)

足立 正昭 8 千213 川崎市高津区宮崎一―八一―一 〇四四

四―八七七―九五二〇 明治生命本社東京直属
〇二八三―一八一―七 〇五 囲碁(氷上町御油)

足立 玉治 千111 台東区日本堤二―二八―一 〇八七二―

〇五三五(青垣町)
千335 藤市南町一―三二―一六 〇四八四―

足立 彊 昭13 千335 藤市南町一―三二―一六 〇四八四―

四五―一五一七九 日本画、川釣、植木(青垣町
菅原)

足立 徹明 45 千155 世田谷区北沢一―三五―一六 〇四四

二一四―二四八二 三菱商事 〇四四四
ルフ、囲碁(青垣町東声田)

足立 寿也 千273 船橋市高根台町一―三三―公団二八八―

二〇一 〇四七四一六六―七四三七

足立 利多加昭 28 千221 横浜市神奈川区口大通一〇 〇四五一

四二一―四七一八 ファッションローゼ (青垣町稲土)

足立 範雄明 37 千249 返子市桜山三一九一六 〇四六八―七

一六二七〇 つるや洋装店 〇四六八―七

一四七四八 (青垣町佐治)

足立 初枝 千196 昭島市中神一―一三五

足立 松治明 42 千221 横浜市神奈川区大口通三五 〇四五―

四二一―四七〇五 (青垣町)

足立 昌彦大 7 千280 千葉市加曾利町八二―二三 〇四七

二―三二―三六七六 川崎製鉄 〇四七 (春日町牛河内)

足立 あつ子 右に同じ

足立 三義昭 11 千236 横浜市金沢区釜利谷町四七三〇―一六 〇

〇四五―七七二―二六三二 日本航空本社 (水上町御油)

足立 守久昭 7 千221 横浜市神奈川区松見町一―一九一八 〇

〇四五―四三二―一〇三一 ファッションローゼ 〇四五―四二一―四七一八 ゴルフ (青垣町口塩久)

足立 幸夫昭 18 千340 草加市高砂二―一八―五一 〇四八九

一―二四―七七八〇 (青垣町中佐治)

足立 譲 千105 港区赤坂青山高樹町二二 (春日町)

足立 義雄昭 19 千210 川崎市幸区小向仲野町三市住一―二二

〇四四―五五五―一〇三四九 ユースキン製薬

〇四四―一三三―七五八四 (水上町)

阿部 小太都大 11 千176 練馬区北町一―四四―一九 〇九三二―

三二八〇 小林製薬 読書 (水上町谷村)

阿部 美江子 右に同じ (水上町石生)

赤松 誠司昭 26 千174 板橋区清水町八六小宮山方

赤松 たつ明 25 千153 目黒区中目黒五―一五―一二 〇七二二

一三七〇四 (春日町)

秋元 多美子 千135 江東区猿江一―一〇―一二 〇六三二―

五七五 華道、短歌、手芸、旅行

秋山 一男明 45 千162 新宿区新小川町一―一三 〇二六〇―

九六二 春日建設 読書 〇二六四―四〇―二二 (春日町多利)

秋山 米子大 1 千166 杉並区阿佐ヶ谷北二―二五―二五 〇三

三九―四一―三三 (春日町)

旭 弘昭 5 千155 世田谷区北沢二―二四―一九 マヤ子供服

店主 四六七―七四二三 (春日町)

芦田 重秋昭 3 千165 中野区大和町四―四九―一 〇三三〇―

五五〇七 日本開発銀行 (市島町上垣)

芦田 信吾昭 12 千152 目黒区南町一―一九―一 電タアパ

ト二二三 〇七七一―七一九〇五九 電タ公社 〇

芦田 有功 千123 足立区江北三―一九―四 〇八九〇―二二

二八一

右に同じ (水上町)

芦田 裕子 坦明 42 千188 杉並区浜田山四一六一一一 〇三二二

一〇六八八 芦田特許事務所 〇五九一一一五

二三 ゴルフ、旅行 (青垣町西芦田)

芦田 務昭 25 千211 川崎市高津区野川三三九NEC野川寮

〇四四一七六六一八四二 日本電気 〇〇

〇四四一四二一一一一内線一〇六〇 カメ

ラ、旅行 (青垣町)

芦田 徹都 千106 港区麻布十番二一八一〇

芦田 敏之 千112 文京区小日向一二五一一四 (春日町)

芦田 雄作 千167 杉並区本天沼一一一一二 奥平方 〇三

三〇一三八〇六 (青垣町)

天野 清子 昭10 千185 国分寺市光町一一四五一九 国立アパ

ト三五〇五 〇四二五五七五九七二二 音

楽 (水上町谷村)

有田 喜一 明34 千157 世田谷区成城四一一一五 〇四八三一

一二〇九 衆議院議員 〇五八一一四九四三

囲碁 (水上町谷村)

有田 久代 明39 千141 品川区東五反田五一六一三 〇四四三

一八九七五 日本船舶職員養成協会 (水上町

谷村)

安達 恭二 明37 千154 世田谷区池尻四一一三六 〇四一一

〇七二三 ゴルフ、読書、レコード (水上町幸

世)

安達 健一郎 千188 保谷市中野三一一三 〇四二四一

二二一三四四六 興国企業 〇九八七一一二

一一 (水上町幸世)

安達 陽一大 15 千340 草加市八幡町猿堀二八五五 渡辺紙

工業 〇八八七六七一 (水上町常楽)

綾木 健子 右に同じ

千182 調布市国領町一一七一五一一四二二

〇四二四一八二一六一七八 ファラージャバ

ン 〇四〇七五八三七 (青垣町)

安藤 英二 明45 千249 逗子市逗子四一七四七 〇四六八一

七一六二二九 日本船舶機関学会 〇五〇二

一三七一 (柏原町)

安藤 繁夫 千157 世田谷区祖師ヶ谷一四四一 〇三〇九

一五七四五 日本学校給食会 (柏原町)

安藤 秀夫 明30 千114 北区西ヶ原三一一二二 〇九二〇一

五七五九 日大理工学部 (柏原町石田)

安藤 道子 明41 千176 練馬区小竹町一一五一 〇九五五〇〇

一四 手芸 (柏原町)

井上 巖 千285 佐倉市上志津角栄六三二号 花王石鹸

〇六六三三三一一

井上 雅次 千188 田無市北原町二一一二八 東京明和商

事 〇二九一一六一一

井上 敏明 千121 足立区中央本町五―三―二、渡辺紙工業(市島町)

井阪 いさお 明41 千186 杉並区松ノ木三―五―一四 〇三二―一四〇九四 (山南町北太田)

井田 悦子 昭7 千120 足立区中川五―一〇―一五 〇六〇五―五三四〇 (市島町)

井手 梅野 昭5 千190 立川市柴町五―二―一公在四四一 〇四二五―三五―七〇三〇 (春日町)

井本 義一 昭9 千184 小金井市緑町五―一九―九太陽神戸銀行社宅一五四号 〇四三三―八三―二六七九 (柏原町)

池上 碩郎 明45 千176 練馬区桜台五―四五―一三 〇九九一―六一四九 (柏原町)

池上 亘泰 昭5 千251 藤沢市藤が岡二―三藤沢団地二―一四 〇一〇四六六―二四―一六二三 日本鋼管(氷上町石生)

池田 種生 明30 千272 市川市東菅野二―一七―一三 〇四七三―三四―〇二八〇 教育評論家協会理事長(山南町小新屋)

池田 和子 右に同じ

池田 忍 昭11 千247 横浜市戸塚区公田町四一七―六 〇四四五―八九二―二八九六 電気通信協会 旅行、囲碁 (山南町小新屋)

生駒 篤郎 明30 千188 保谷市東町五―一―一四 〇四二四―

二―六二六七 ゴルフ、麻雀、写真 (柏原町)

生田 清弘 大13 千157 世田谷区成城一―七―七 〇四二五―一八九四 新明和工業(市島町)

生田 正輝 千156 世田谷区船橋町四七 〇四八三―一三三三 一慶応大学法学部教授 〇四五―一五一八 (柏原町)

生原 富子 昭7 千165 中野区丸山町二―三―一七 〇三三九―二八五四 (氷上町石生)

石井 久吉 明42 千251 藤沢市辻堂一七〇三 〇三六―一六五一四 神奈川清和(市島町)

石倉 軍二 千110 台東区入谷一―四―一 〇八七二―一六〇二六 (氷上町)

石田 修三 大3 千112 文京区千石二―四〇―二六 〇九四一―五五九〇 昭和郵船 専務取締役 〇二二―一八三四 (美の郡吉川町)

石橋 昭彦 千145 大田区田園調布三―一九―一九 〇七二―一二五二七 石橋生糸(市島町)

磯 畑弘太郎 明29 千270 松戸市小金ぎよしヶ丘一―三―二 〇四四七―三―四一―六四七九 (氷上町下新庄)

源 富士乃 千155 世田谷区北沢町二―一九―一

泉 幸夫 大10 千272 市川市中国分五―二―一四 〇四七

三一七―九五八七 鉄道弘済会理事信越支部
長 (氷上町)

泉 審子 大11 右に同じ 茶道、手芸 (柏原町)

千336 浦和市南浦和二―一九一三 〇四八八
一八一―〇五九五

稲次 淑子 昭8 千113 文京区西片一―三―六ウイラロイヤル
文京西片七〇二号 〇八一五―三七九九 (氷上

町稻継)

今北 正 千147 品川区五反田三―六―一〇 〇四四五―
一七二三 武田薬品

岩田 や系の 昭18 千166 杉並区高円寺南二―一四―一三 〇三二
二―五〇―一四 手芸、洋裁 (氷上町石生)

鶴沢 洋子 昭6 千115 北区赤羽二―二五―一二 〇九〇一―二
八五〇 お好み焼屋 (青垣町)

宇野 正活 明37 千338 与野市大戸八六三 〇四八八―三一
五二九七 (東京)

上嶋 一見 昭20 千158 世田谷区玉川台二―三―一 住友スリ
一エム社 〇三―三七二一 (氷上町本郷)

上田 要明 17 千659 芦屋市松の内町九―五 〇三二―〇八〇
六 謡、囲碁 (春日町棚原)

上田 正己 明41 千124 葛飾区東堀切一―〇都住三〇三 〇六
〇三一五七六五 誠和商事 〇八六一―七〇

〇五 (柏原町田路)

上田 実昭 12 千221 横浜市神奈川区西寺尾町久保下一二一六
公団一―三〇七 県立高浜高校 〇四六三一

二―〇四一八 詩吟 (柏原町)

上田 譲大 12 千221 横浜市神奈川区上反町二―一七―二 〇
〇四五―三二二―一六三二 上田齒科医院 釣

(春日町棚原)

上田 三四二 大12 千180-04 清瀬市梅園二―一―一 〇四二四―
九三一―一七七 (小野市)

上田 吉明 千215 川崎市下麻生四五二―四

上村 愛子 昭7 千272 市川市東菅野三―一七―二五 〇四七
三―三六―六〇二二 (柏原町屋敷)

上山 顕明 37 千107 港区赤坂八―六―三三 〇四〇八―二〇
五一 美術鑑賞 (柏原町大新屋)

植木 英吉 明42 千167 杉並区下井草四―二八―八 〇三九九―
七二二一 井荻駅前郵便局長 〇三九〇―九六
六〇 (山南和田)

植木 一夫 千113 文京区白山三―一―一三 〇八一―一八
五七三 植木紙工所 (山南町)

植木 伍鹿 明27 千168 杉並区永福二―一―一二 〇三三二―〇
四九一 囲碁、園芸 (山南町和田)

植木 格明 43 千167 杉並区下井草四―二七―一三 〇三九九―
一六三五二 東邦化成産業 〇九五三一
〇二二一 ゴルフ (山南町小畑)

植木 十和子 千181 三鷹市下連雀八―五―四〇三 〇四二

植田 勝憲 二一四六—二二四一
 千155 世田谷区代沢二一四〇殖民塾服部礼介方
 (水上町)
 植田 博三 千125 葛飾区白鳥三一九—一八 (水上町)
 千221 横浜市神奈川区白幡西町一〇〇—一八
 植田 博昭 千221 横浜市神奈川区白幡西町一〇〇—一八
 宮〇四五—四〇一—八六六一 額田製作所東京
 営業所長 宮七四二—一四六四 (市島町)
 植村 章子 千180 武蔵野市吉祥寺本町三一七—一〇 宮
 〇四三—二二—七七九七 園芸、生花、唄
 (春日町船城)
 上野 重喜 千247 鎌倉市今泉九〇〇—一〇二 宮〇四六七
 一四五—二四七四 NHK (水上町常楽)
 白井 猛夫 千272 市川市真門四—二一〇くるみ荘 東京
 医科大学医学部 (青垣町)
 梅田 重二 千244 横浜市戸塚区戸塚町四八六—三四 宮〇
 四五—八六一—四三二八 三和銀行 (山南町和
 田)
 梅津 昭治 千121 足立区梅島二—二五—二〇 渡辺紙工業
 協 (柏原町)
 江間 時彦 千164 中野区中野五—五二—一五 中野ブロー
 ドウエイセンター九二八号室 アメリカンファ
 ミリー生命日本支社副社長 (柏原町)
 恵本 みよし 千351 和光市南二—一三—二〇二 宮〇四八
 四—六三—一八一五五 (山南町前川)

遠藤 妙子 千175 板橋区高島平二—二八—三一—二一四
 宮九三六—四三三六四 (青垣町佐治)
 小川 晴通 千107 港区赤坂三—一六KTビル 宮五八三一
 一五五三 杏林堂主人 囲碁、写真、陶器 (山
 南町和田)
 小田 富士夫 千194 町田市玉川学園四—一六—一八 宮〇四二
 七—二七—八七七六 (柏原町)
 小田 明子 千177 練馬区関町六—四三—二九 日本電子開発
 小田 武次郎 千177 練馬区関町六—四三—二九 日本電子開発
 小田 利江 千150 渋谷区東四—一六—一三 宮四〇〇—一三
 小野 智恵子 千180 武蔵野市境四—五—九 宮〇四三—二一五
 九六 (水上町大崎)
 織田 信和 千180 武蔵野市境四—五—九 宮〇四三—二一五
 一—七七—三一 モービル石油 (柏原町)
 尾上 典世 千191 日野市旭ヶ丘二—一九—一五 宮〇四二
 五—八一—七〇四二 (春日町野村)
 大石 勝郎 千152 目黒区鷹番二—九—二二 宮七三—一
 〇七三 (柏原町)
 大江 範子 千240-01 三浦郡葉山町堀内六四—一—一 宮〇四六
 八—七五—一五—一八〇 邦楽、日舞、卓球 (東京)
 大木 千里 千188 保谷市下保谷二—八—二八 (山南町谷
 川)
 大木 正徳 千156 世田谷区経堂二—三七—一〇 経堂セント

ラルマンション 宮四二九—九九六〇 日立製
作所 宮四三五—四一一一 (山南町)

大木 道則 昭3 千177 練馬区東大泉町三六六 宮九二四—〇二
四四 東大理学部 宮八二二—二二二一内線三
四三六 (山南町谷川)

大木 俊治 明29 千123 足立区梅田七—六—一七 宮八八七—五
三七三 囲碁 (水上町本郷)

大沢 まつ子 千166 杉並区和田三—三〇—一 宮三一—五
二七七 (山南町)

大地 富美子 昭3 千192 八王子市片倉町三三—二 宮〇四二—六
四五—〇八五六 パーセル洋菓子店 宮〇四二
五一八一—〇八二四 (水上町朝坂)

大槻 作治郎 昭12 千350-03 比企郡鳩山村大字右坂六六四—一四七
宮〇四九二—九六一—〇六一 オーバル機器工
業 宮三六三—三三三—一 釣、旅行、読書
(市島町下鴨坂)

大西 俊治 大2 千350 川越市霞関北四—一七—一三 宮〇四九
二—三一—九二八一 埼玉日産モーター 熊
谷支店 (春日町松森)

大西 淑恵 明33 千164 中野区東中野五—一八小滝台マンション
一—三〇三 宮三七—一四八七七

大野 渥子 大2 千182 調布市小島町三—二—一五 宮〇四二—四
八二—七九三三 短歌 (山南町上滝)

大橋 威彦 昭4 千120 足立区綾瀬四—九—二七 宮六〇五—〇

四三六 スワン万年筆 社長 宮三四—一二五
六九 ゴルフ (水上町井中)

大 安 徹 昭25 千158 世田谷区上野毛町四—一—一四

岡 崎 正 一 昭24 千222 横浜市港北区太尾町五四六三上 東京
工業大学 宮七二六—一—一 (神戸市)

岡 田 一 雄 明36 千176 練馬区春日町四—三—一七 宮九九〇—
一三四七 庭いじり (山南町畑内)

岡 本 憲太郎 千125 葛飾区白鳥三—九—一八 宮六〇—一—
六六五 岡本化学工業 社長 宮六一七—三三
七七 (水上町)

岡 本 庄太郎 昭10 千370 高崎市飯塚町飯玉一五五二—二 宮〇二
七三—一三—三五七九 インマヌエル高崎キリ
スト教会 (水上町)

荻 野 演 一 明22 千166 杉並区阿佐ヶ谷北四—一四—一二 宮三三
七一—一八三 (青垣町東青田)

荻 野 一 雄 千145 大田区上池台三—二六—二 宮七二九—
四九六七 (市島町)

荻 野 完 二 明37 千332 川口市上青木町三—九七八NHK川口寮
三三三号 囲碁 (山南町谷川)

荻 野 謙 一 千110 台東区上野桜木二—三—一四 宮八二—
一五二七〇 東峯商社 社長 (春日町)

荻 野 公 一 郎 千121 足立区谷在家町二九三都住二—二〇三
渡辺紙工業 社長 (春日町)

荻 野 公 三 昭11 千233 横浜市南区六ツ川四—一—一五四—一九

荻野 定一郎 明27 〇四五—八三—二四五— 戸塚山谷病院
千248 鎌倉市御成町一七一—四 〇四六七—
二四—二八四 荻野法律事務所 〇二二—
七〇六一 読書、旅行 (春日町多田)

荻野 武昭 5 千235 横浜市磯子区汐見台三—四—三—三三九
〇四五—七六一—九〇五〇 中央建材工業協
〇五四三—八一〇六 ゴルフ、囲碁 (市島町)

荻野 哲男 千170 豊島区北大塚二—二五—四 〇二ニ—ス
ター (柏原町)

荻野 英夫 明35 千106 港区元麻布二—七—一三 〇四七三—三
九〇— 中央建材工業協会 〇五四三—八一
〇六 ゴルフ、囲碁 (市島町)

荻野 経子 千157 世田谷区砧八—八一—七 〇四一六—二
八五七 (春日町多田)

奥谷 松治 明36 千155 世田谷区代田三—五一—一六 〇四一四
—九五六三 全国漁業協同組合講師 読書 (市
島町)

音無 太美子 大3 千135 江東区牡丹三—一九—一とぎわ荘俳句、
民謡、端唄 (春日町黒井芝町)

柿原 武司 昭10 千101 千代田区三崎町三—一〇 〇二六五—七
九二— 〇東京スドー 〇八三四—三三九—
(春日町)

柿原 庸明 39 千180 武蔵野市吉祥寺南町四—二四—一 〇
四二—四三—六〇〇七 日本補聴器協 〇二

景山 正吾 明34 九四—〇四三一 (春日町中山)
千156 世田谷区桜一—二〇—七 〇四二九—五
八八〇 ゴルフ (佐用郡)

梶浦 浩二郎 千160 新宿区北新宿一—一八—七 〇三六八—
八〇〇七 江の島鎌倉観光協 (揖保郡)

粕谷 進 千281 千葉市柏井町一六五六—五八千代台バ—
クハイツA—2—三〇二号

片瀬 勝義 千121 足立区梅田町一五九五
—01— 富士宮市北山本門寺 (春日町)

片山 日幹 千163 中野区若宮三—一九—二 〇三三八—六
四五四 研教学館 〇二六三—六七三一 (春日
町黒井)

片山 則昭 昭26 千156 世田谷区桜町一—二〇—一三 〇四二九
—六九三一

勝野 きしの 大7 千181 三鷹市井の頭四—一九—一五コークハウ
ス 〇四二二—四七—七五四九 新宿区立あ
ゆみの家 音楽、観劇 (春日町春日部)

門山 静子 明40 千239 横須賀市久里浜三—一〇〇—二—一 〇
〇四六八—四八—一二二七 (氷上町成松)

門山 寿子 昭23 千121 足立区梅島二—二五—二二 〇八八七—
右に同じ

金子 一二 千184 小金井市本町一—六一—五 〇四二三
七七四六 渡辺紙工業協 (氷上町)

川勝 小里 明37 千184 小金井市本町一—六一—五 〇四二三
—八一—二〇五七 (氷上町本郷)

川見 智恵子 昭12 千173 板橋区徳丸一―一六―一一 宮九三二―七七七七

神井 あつみ 千177 練馬区大泉学園町二四一八 宮九二二―七一九九 (多可郡)

河津 助治 千162 新宿区矢来町二 傍近藤写真製版所 宮二六〇―六二八一 (春日町)

河津 省三 昭15 千165 中野区松ヶ丘二―三―一〇 平野方 東京信用保証協会日本橋支所 宮二七四―一三五― (春日町朝日)

管野 きぬゑ 明42 千158 世田谷区奥沢四―二二―一六 宮七二〇―六八九一 謡 (柏原町)

木内 実喜夫 昭9 千514 津市大谷町一三二―四一 宮〇五九二―二六―三二〇七 N・H・K津放送局 ゴルフ (氷上町成松)

木寺 昭三 千184 小金井市仲町三―一四―二一 宮〇四二二―三八三―九九一七 本莊耐酸化学(株)東京出張所 宮六三四―一六〇二〇 (市島町上牧)

木村 つた江 大5 千182 調布市東つじヶ丘二―三九―一五 宮三〇―一六八九五 榑木村商事 短歌、読書、旅行 (市島町岩戸)

木呂子 恵美子 昭13 千180-04 清瀬市中清戸二―七五〇―一八 宮〇四二四―九一―一三〇三三 読書、美術鑑賞、お菓子づくり (春日町)

喜田 ゑい 千180-04 清瀬市下清戸四―一六四〇 大林組社宅 宮

菊池 頭三 明26 千176 練馬区小竹町一―一五七 宮九五五―一四五五三 菊池齒科医院 花木盆栽 (青垣町佐治)

菊池 武利 明32 千194 町田市森野四―五―二一 宮〇四二七―二六―二四六九 写真、ゴルフ (青垣町佐治)

菊池 洋子 昭8 千114 北区西ヶ原一―二二―四 宮九一五―一〇一〇七 武蔵野音楽大学講師 宮九二一―一二一 旅行、ゴルフ (氷山町幸世)

菊沢 貞雄 千155 世田谷区代沢二―一五二 (柏原町)

岸田 勇 昭17 千343 越ヶ谷市大成町一―二三―三八一六 宮〇四八九―八二一―八六六 市田(傍)浜町支店 宮八六二―一八一―一 ゴルフ (氷上町中野)

岸本 昌子 千121 足立区花畑町花畑団地一七―一〇二 宮八八四―一七〇二四

木下 五郎 明33 千158 世田谷区玉川四―九―一八 宮七〇〇―三二四五 (氷上町石生)

木下 年子 千180 武蔵野市八幡町四―二四―一八 (岐阜)

久下 梅次 千154 世田谷区弦巻町三―二二―一四 宮四二九―一六三六八 青果商 (氷上町)

久保 豊 昭3 千233 横浜市港南区日野町二八四三―二 宮〇四五―一八三一―一六一五〇 太陽神戸銀行上福岡支店長 ゴルフ (山南町岡本)

久保田 元子 千120 足立区東綾瀬三―一八―四〇―一三〇五 宮六二〇―一四〇〇七 (柏原町)

栗原 重次 明43 千336 浦和市岸町二一三一三 〇四八八
 一三一六六一 島田特殊硝子株式会社 〇四
 三三一六一五一 (春日町国領)
 小糸 イキ 千155 世田谷区北沢五一六一一三 〇四六八
 一三八〇九 (西陽市)
 小谷 寛治 明44 千157 世田谷区南島山六一六一八 〇三〇〇
 〇四五七 麻雀、ゴルフ (柏原町古市場)
 小谷 正雄 明30 千143 大田区山王三一三六一四 〇七七一一六
 六五二 東京理科大学学長 〇二六〇〇四二七
 一旅行 (柏原町)
 小谷 正己 大6 千249 逗子市久木一八一一八 〇四六八一
 七一六四四九 勝つるや洋装店社長 〇四
 六八一七一三〇七五 ゴルフ (青垣町稲土)
 小寺 確郎 明43 千191 日野市南平一一三一八 〇四二五
 九一一二九六〇 報国水産协会会长 ゴルフ (青垣町東芦田)
 右に同じ
 小寺 富美子 千125 葛飾区金町一一二一一二 〇六〇七一
 〇四五〇 (青垣町東芦田)
 小中 克己 昭2 千663 西宮市枝川町一七一一五五六浜甲子園
 合同宿舍 〇七九八一四八一四二二六 大阪
 大学 〇六一八五六一一三五四 ゴルフ、自
 動車、アイススケート (市島町)
 小 西基右エ門 千180 武蔵野市吉祥寺東町三一二一一三

小 西 みゆき 右に同じ
 小林 武治 明39 千180 武蔵野市境南町一一三〇一二〇 〇四
 二二一三一四七九六 国学院大学 〇四〇三
 一三三三一 短歌、民謡研究 (春日町新才)
 小林 剛大 10 千180 武蔵野市境五一七一二四 〇四三二
 一五二一四四二六 中央畜産会 〇五八一一六
 六七六 乗馬、アイススケート、ゴルフ、英会
 話 (市島町)
 小林 章乃 明29 千142 品川区豊町四一八一二 〇七八二一六九
 九三 (氷上町谷村)
 小山 元和 昭8 千270 松戸市下矢切七六メゾンドール矢切四〇
 一 〇四七三一一六六〇九七七 勝さき元社
 長 〇六四五一一〇一六五 ゴルフ (多紀郡篠山
 町)
 児玉 安正 昭5 千247 鎌倉市今泉一一四〇一四三 〇四六七
 一四五七七七五 三和銀行 (山南町谷川)
 古藤 一昭 18 千238 横須賀市衣笠栄町一一七〇 〇四六八
 一五一一二〇五 装苑つるや店主 (青垣町佐
 治)
 近藤 国夫 千168 杉並区宮前 二二二一一四
 近藤 輝雄 千272 市川市福栄二一五一一一五〇六 〇四
 七三一五七一四六四 太陽神戸銀行丸の内支
 店 (春日町)
 近藤 田治 千180 武蔵野市境南町二一一〇一二五武蔵野マ

ンション三〇一 〇四二二一三一三六二二
勸全国食生活改善協会理事 (春日町東中)

近藤 敏雄 大9 千133 江戸川区南小岩八一―一六 〇六七五

―六四七九 つるや洋装店 (柏原町田路)

近藤 林蔵 明33 千162 新宿区矢来町一 〇二六八―六四五一

〓近藤写真製版所 (春日町棚原)

鴻谷 喜代治 明42 千166 杉並区阿佐ヶ谷北三―三二二三 東京は

かり工業協同組合 読書、習字、麻雀、ハイキ

ング (青垣町佐治中町)

佐々木 盛雄 明41 千161 新宿区中井二―一八 〇九五―一

二八五八 (春日町)

佐々木 守夫 千157 世田谷区給田三―九一―四〇三 〇三

〇八一七―一六九 日産チェリー浜田山販売

ゴルフ、スキー (青垣町)

佐藤 菊子 昭8 千186 国立市富士見台一―二五―一 日本キリ

スト教会国立伝道所 〇四二五―七五―七四

三九 (氷上町谷村)

斎藤 要 千271 松戸市小金原五―二七―二 トーメン清水

マンション三〇一号

斎藤 俊一 大15 千173 板橋区板橋四―一三―一三 〇九六三―

〇〇八〇 トキワ手芸 〇八六六―三五二〇

(山南町青田)

斎藤 文子 千112 文京区大塚三―一―一 大塚女子アパート

(柏原町)

酒井 明 昭 千176 練馬区豊玉中二―二中村静香方 (山南

町)

酒井 重男 昭7 千352 新座市本多一―一〇―一九 〇四八四

一七八―二四八九 オルガン 〇八二二―五

一五一 ゴルフ、囲碁 (柏原町)

坂上 勝郎 昭9 千165 中野区白鷺三―五―一 〇三三九―〇八

二七 ダイレクトメルーサービス 〇二九三

―二九六一 囲碁 (氷上町下新庄)

笹倉 強 昭7 千352 新座市栄四―五―二五 〇四八四―七

七―五六四〇 城北高校教諭 〇九五六―三一

五七 (西脇市)

笹倉 郁子 右に同じ

笹倉 良正 昭12 千254 平塚市大島二―二六六 東洋ソフラン 〓

ゴルフ (山南町)

沢田 みさを 昭7 千156 世田谷区宮坂三―一三―一 経堂オリオン

五〇二 読書 (柏原町下町)

志村 勝郎 千164 中野区南台五―一九―三 〇三八一―五

二四五 農林省家畜衛生試験場 (柏原町屋敷)

塩見 つるゑ 明30 千167 杉並区西荻南三―一六―一七 〇三三四―

〇四三二 (市場町徳尾)

下中 昭男 昭2 千106 港区西麻布三―一六―二六 〇四〇八―

二四六二 朝日麦酒 〓碁 (山南町谷川)

実保 二明 25 千145 大田区北嶺町一四―一二 〇七二〇―六

九六一 (柏原町古市場)

篠原 よね子 昭7 千181 三鷹市中原四一八―三二 〇四二二―
四五―二九〇五 (青垣町)

正呂地 群 治 大10 千105 港区芝大門一―六―二二 〇四三一―二
六五三 参議院自由民主党 〇五八―一―一五三
二ゴルフ (氷上町横田)

白滝 勝康 千354 富士見市上沢一―六―四〇 〇四九二―
一五二―一七五八 〇紐ニースター 〇九一五
一〇一― (氷上町成松)

新川 和博 千165 中野区野方三―三七―一二 〇三八六―
八八二― (春日町黒井)

須田 十史子 千184 中野区上高田四―一九―六―五〇二 〇
三八五―三五二― (市島町鶴庄)

須原 清明 40 千164 中野区南台五―三〇―一六 〇三八一―一
六二二 集成建設 〇三七四―一五一 謡
曲、ゴルフ、俳句、絵画、旅行 (市島町下竹
田)

杉岡 明美 昭13 千153 目黒区中町二―四八―二五 〇七一―九一
九九六五 コーラス、手芸、読書 (氷上町油
良)

鈴木 和栄 昭4 千177 練馬区北大泉町二六〇 〇九二四―七五
〇六 (柏原町石田)

勢川 武彦 昭9 千164 中野区東中野二―一七―二〇 〇三六一―
一八六六七 大阪商船三井船舶 囲碁 (山南
町)

関 正治 千182 狛江市和泉三六六―三二―一五―三〇五
〇四二四―八四―五六二―

瀬々 妙子 昭9 千121 足立区栗原二―七―四―一〇七 栗原団
地四―一〇七 〇八八―三―七四三三 〇KKCS
(柏原町)

荘 克衛 明39 千174 板橋区蓮沼町五二 〇九六六―五八八二
凸版印刷 〇 (柏原町)

田口 正男 大4 千170 豊島区南大塚一―四六―九 〇九一五―
五九六一 〇紐ニースター社長 〇九一五―〇
一一一 (柏原町)

田中 健治 明34 千166 杉並区成田西三―一八―三三 〇三九二
一三一―九 (山南町畑内)

田辺 輝一郎 明40 千250 小田原市十字四―一〇―一六 〇四
六五―二二―三九八― 日本バウアエンジニア
リング 〇ゴルフ (柏原町)

田辺 善人大1 千165 杉並区梅里二―二五―一三 高円寺プラ
ザ四〇七 〇三一五―四九六一 日本リックウ
イル 〇ゴルフ (柏原町)

田淵 初雄 千151 渋谷区代々木三―一二横山きく方 (山南
町)

田村 克典 千188 田無市谷戸町三―二七―二四―六〇四
〇四二四―二二―三二六五 (春日町中山)

田村 元子 昭10 右に同じ (春日町松森)

高井 静大7 千167 杉並区荻窪四―一八―七 〇三九八―六

一七一 (氷上町谷村)
 高尾 久子 千185 国分寺市西町五一四一 一 宮〇四二五
 一七五—八六三五 (柏原町)
 高木 幸子 千166 杉並区成田東五一七—一四 宮三九八
 一八六二五
 高桑 良 弥明 39 千166 杉並区阿佐ヶ谷北一二二—二八 宮三
 三八—七三九八 佛化学機械研究所 宮四一四
 一四九五三 (柏原町)
 高田 美佐子 昭5 千157 世田谷区給田二—二三 宮三〇〇—二
 九三四 (柏原町)
 高橋 世志子 千176 練原区早宮一二—一七 宮九三四—二
 六二二
 高松 常太郎 昭12 千363 桶川市東二—八一 宮〇四八七—七三
 一二五三九 佛湊屋 宮六六七—七七七一
 レーボール (春日町黒井)
 高松 薦夫 千160 新宿区四谷四—二三 四谷御苑マシヨ
 ン六〇六号 宮三五四—〇一九八 鶴書房
 宮二六五—四七八四 (市島町)
 高見 嘉都司 大15 千173 板橋区熊野町四〇—一一 宮九五七—〇
 六〇〇 高見産婦人科病院 (市島町)
 高見 幸男 千176 練馬区錦二—八一三 宮九三三—六七三
 一 (市島町)
 高見 孝男 千121 足立区竹の塚七—三都住二—一〇三 渡
 辺紙工業 佛 (市島町)

高見 巻男 千121 足立区古千谷五一—二九 渡辺紙工業
 佛 (市島町)
 高見 みすゑ 大11 千115 北区赤羽西三—三—一二 宮九〇〇—
 三八五六 (市島町前山)
 高見 安亮 大10 千177 練馬区石神井町八一五六—一 宮九九七
 一〇六一三 忠男 佛 宮九二二—〇六八九 (春
 日町棚原)
 武田 辰雄 千102 千代田区平河町一—五 全国器械玉糸工業
 組合内 宮二六二—〇九六六 (青垣町)
 竹林 すま子 明35 千152 目黒区碑文谷四—一六—一二 宮七一二
 一五七〇〇 茶道 (春日町国領)
 竹村 政雄 千170 豊島区北大塚一—三—三二 宮九一七
 一五七四〇 十字屋ストア (青垣町)
 谷 達雄 明44 千176 練馬区桜台六—二九—二二 宮九九一—
 六四五二 日本精米工業会常務理事 宮二六三
 一〇三一 ゴルフ、俳句 (柏原町)
 谷垣 一宏 千359 所沢市三ヶ島二八六一 宮〇四二九—二
 八—三〇六五 佛マーケティングセンター
 宮四〇四—二九四六 (氷上町棧敷)
 谷垣 正雄 明39 千168 杉並区高井戸西一—二四—一七 宮三三
 三一六一六〇 佛水沢工務店 宮六四二—七二
 一一 ゴルフ、俳句 (柏原町大新屋)
 谷垣 美代子 右に同じ (春日町東中)
 谷垣 博 大1 千188 田無市西原町四—七—九 宮〇四二四—

六二一三〇一一 榑ダイヤコンサルタント(柏原町)

谷垣 尚大13 千150 渋谷区神宮前四一八一一七 〇四〇一

一九九六二 新日本製鉄榑 〇二四二一四一一

一(柏原町)

千種 倫幸 昭14 千336 浦和市太田窪三二二二四 〇四八八

一八二一九七三三 蝶理榑 〇六六五一一二五一

三(山南町)

千葉 淳子 昭7 千172 板橋区赤塚二一九一五 〇九三〇一六

四一九(山南町谷川)

塚口 稔明31 千167 杉並区荻窪二二二一九 〇三九一一四

八八六(水上町油利)

塚口 一 利 右に同じ 河合楽器製作所東京支店(水上町油利)

〇〇四 榑つるや洋装店社長 ゴルフ、盆栽

土田 直吉大3 千142 品川区荏原三一〇一一二 〇七八三一一四

〇〇四 榑つるや洋装店社長 ゴルフ、盆栽

(青垣町)

葛川 てる代大11 千271 松戸市中矢切五二二 〇四七三一一六二

一六五二九(市島町竹田)

榎 玲子 昭7 千336 浦和市高砂三一七一一五 〇四八八

一六一八七五三(春日町大路)

土屋 タイ明27 千177 練馬区東大泉三五七 〇九二二一八六八

〇(福知山)

常岡 昭大6 千154 世田谷区野沢二一三四一九 〇四一一一

一三〇六 常岡眼科医院 〇四二八一八八七七 榑基、尺八(柏原町)

常岡 文亀 昭31 千357-02 飯能市白子三三三 〇四二九七一一八

一〇九八 画家 花つくり(柏原町上小倉)

常岡 幹彦 昭6 右に同じ 画家 旅行、テニス(柏原町上小倉)

角田 弘子 千270 松戸市八ッ崎六八四一一五 〇四七三

一四一一六五二三

田 健 一大3 千940 長岡市若草町一五一一二 〇二五八

一三二四〇五七 長岡工業高等専門学校長

〇二五八一一三二一六四三五 榑基・音楽(柏原町)

田 敏夫 大10 千151 渋谷区上原三三三一一八 〇四六七一一四

三八六 日本交通公社本社 旅行(柏原町)

田 季晴 昭44 千664 伊丹市西台四一一二六 〇七二七一

七二二四一六 三和金属工業榑社長 〇五三

一六三三一 ゴルフ、釣(柏原町)

田 英夫 大12 千156 世田谷区経堂一一三七一一〇 〇四二〇

一六六一 参議院議員 〇五八一一〇〇五三

(柏原町)

田 浩大1 千151 渋谷区代々木五一一四一一 〇四六六一

〇六四一 金商又一榑 〇六六八一一五二二

ゴルフ、ドライブ、釣(柏原町)

東後 一美 昭35 千156 世田谷区赤堤二一三五一一三 〇三二二

一八五〇 植木いじり(加西市朝妻)

東郷 茂明 36 千173 板橋区双葉町一九一四 〇九六一一—
 二六三 自由業、謡曲、庭球、柔道 (加西市)
 土井 崇 司 昭 13 千274 船橋市習志野台三一—一五—二〇四
 〇四七四—六七一四八四二 渡辺紙工業 〇
 〇八六一—二三三一 (山南町梶)
 土肥 多香子 千145 大田区久が原三一八—二 〇七五二—
 六三〇 (多可郡)
 永井 常資 大 2 千194-01 町田市鶴川四—二五—六 〇四二七—
 三五—三七六一 渡辺紙工業 〇八六一—二
 三三一 ゴルフ (柏原町)
 永井 希代子 大 8 右に同じ (水上町成松)
 永井 輝 江 明 32 千166 杉並区松ノ木二—一〇—二 〇三二—
 一二六六七 (市島町吉見上田)
 中井 薫 子 千274 東葛飾郡鎌ヶ谷町初富九二八
 千113 文京区本駒込六—二五—三 〇九四一—
 六四三六 (山南町)
 長尾 清三郎 千157 世田谷区砧六—二六—五 〇四一五—三
 七七三 日本調度機械 〇五八五—〇四五四
 (水上町)
 長尾 貴美代 右に同じ (水上町)
 中島 惇 大 4 千154 世田谷区下馬三—二—一三 〇四二—
 四四〇三 汽車製造 〇六四七—一六五八
 (青垣町)
 中島 義則 千350-13 狭山市北入字中原四〇六—二 〇四二—

長富 千代一 大 14 九一五七一六五一四
 千116 荒川区南千住五—九—八 〇八〇二—三
 七二一 〇長富工務店社長 ゴルフ (春日町大
 路三井庄)
 中野 周子 昭 5 千181 三鷹市上連雀八—一—三六 〇四三二—
 一四四—七九六〇 (春日町広瀬)
 中野 正義 明 34 千167 杉並区西荻南二—一—一四 〇三三三—
 一六三八七 (山南町和田)
 中村 正之 大 14 千350 川崎市仙波町四—一八—六〇 〇四九
 二—二四—三四六二 渡辺紙工業 〇七六一
 一三三一 カメラ、旅行、読書 (山南町奥野
 口)
 中村 道子 昭 3 右に同じ
 中山 昇 昭 8 千247 鎌倉市城廻一〇〇—六四 〇四六七—
 四五—七七九〇 大阪商船三井船舶 〇
 園芸 (青垣町佐治)
 西岡 萌子 千213 川崎市高津区新作五二〇 〇四四—八
 七七—五六七二 (水上町成松)
 西川 政一 千167 杉並区善福寺二—三五—一六 〇三九〇
 一三一六 日商岩井 〇相談役 〇五八八—二
 一一一 (市島町)
 西垣 秀正 大 2 千182 狛江市和泉二—一 〇四八〇—二二五
 八 日本ビクター 〇専務 園芸 (山南町)
 西垣 英夫 大 11 千233 横浜市区南七ツ川二—一五—一 〇〇

西垣 正弘 四五―七二―一六七三九 防衛庁(山南町上滝)
 千165 中野区野方二―四七―八 〇三八六―〇
 四九〇 (山南町)
 西垣 桂 千166 杉並区松ノ木三―一五―一四井坂方 〇
 三二―一四〇九四 (山南町)
 西垣 祥昭12 千142 品川区小山四―九―三 〇七八一―八六
 〇三 日本舞踊研究所 (柏原町)
 西原 のゑ 千113 文京区白山五―二―一二 〇九四一―
 五一八七 (多紀郡)
 西村 徹 千252 神奈川県高座郡綾瀬町寺尾二二六八
 千152 目黒区八雲三―三―一 〇七一八―
 一四五二 大阪通産局長 囲碁、マーシャヤン
 能勢 次郎大1 千280 千葉市穴川二―三―六 〇四七二―一五
 一―三七八二 木徳証券 〇六六六―一四八―
 讀書 (春日町)
 野村 節三 千227 横浜市緑区青葉台一―七―五第一公団七
 〇六
 野村 虎男明38 千145 大田区雪ヶ谷大塚町三―一〇 〇七二〇
 一五六五二 奇術、読書 (柏原町)
 野村 利吉明21 千152 目黒区柿ノ木坂一―二―九 〇七二七―
 五二二七 (春日町野村)
 野村 千里明31 右に同じ (水上町絹山)
 野村 嘉男大14 千276 八千代市八千代台東三―一七―一一 〇

長谷川 尚 〇四七四―八二―八八〇八 渡辺紙工業 〇
 八六一―三三三一 ゴルフ (春日町野村)
 千174 板橋区志村一―二四―一三 〇九六〇―
 五八七二
 長谷川 美世子 千156 世田谷区宮坂三―二―二三 〇四二九
 一七六四三 (柏原町)
 波多 洋三明42 千550 大阪市西区江戸堀一―六〇 大阪電気暖
 房 〇内 囲碁、釣 (春日町棚原)
 波多 道子 千112 文京区春日二―一七―二 〇八一―二
 八六〇
 袴塚 節子 千131 墨田区京島三―二〇―五 〇六一三―二
 五〇三 (青垣町)
 萩原 庸三明41 千310 水戸市大工町二―七―一一 〇二九二
 一―二一三九二七 茨城レントゲン 〇横須賀
 蓮井 春雄 千166 杉並区高井戸東四―三―一五 〇三三四―
 七四四五 いづみ屋食堂自営 (市島町岩戸)
 畑 秀夫明44 千133 江戸川区南小岩三―九―二一 〇六五七
 一六〇七一 木徳証券 (春日町多利)
 畑 義則昭9 千101 千代田区神田神保町二―四二 〇一五二
 内 〇二六三―一六〇五一 (春日町多利)
 畑 義博明39 千184 小金井市東町一―二―一七 〇四二三
 一八一―六八六一 八光通商 〇四六四―八
 五一― (春日町多利)
 畑 光昭8 千176 練馬区旭町二―二―一四 〇九三〇―四

六九三 烟事務所 (多紀郡篠山町)
千340 埼玉県南埼玉郡八汐町大曾根 一九三一

服部 時美
渡辺紙工業(春日町)
千193 八王子市山田町一五三一三五—三服部

良太方 〇四二六—六二一八五一〇 (山南町
和田)

林 恭平
千166 杉並区和田一五〇—二七 〇東日本興
業 〇二一—一三九五 (市島町)

林 艶子
千143 大田区南馬込三一五一—一四 〇七七六一
五三四一 (氷上町石生)

林 谷 集明41
千184 小金井市中町一八—二一 〇四二三
一八一—四六二一 〇基 (氷上町石生)

林 田 孝子明33
千220 横浜市西区宮ヶ谷五五—一七 〇四五一
三二—三三七九 (柏原町)

原 功
千274 船橋市高根台三一—一七六—四〇四
千162 新宿区細工町二七 〇二六〇—四七二五
春日建設(株)社長 〇二六四—四〇—一 〇謡曲、
ゴルフ (春日町多利)

東 田 実大2
千153 目黒区下目黒三一七—一五 〇四九二—一七
四八七 〇精巧写真製版所 〇五五一—一〇—一
八 園芸 (山南町下滝)

久 石 幸太郎昭8
千167 杉並区上井草三一—一五—一 〇三九五
一八六一七 日本板硝子(株)東京支店 将棋、マ
ーじゃん (柏原町屋敷)

久 安 敏 夫明43
千167 杉並区天沼三一—一三八 〇三九三—一〇
八六三 (柏原町)

樋口 ふみ子
千238 横須賀市小矢部四—一三一五 〇〇四六
八—五二—一五六二

菱 田 ふみ子明33
千152 目黒区自由が丘—一二—一四 〇七七—一七
一〇六八 (氷上町谷村)

広 沢 克 江大15
千160 新宿区西早稲田二—一三一—一三 〇二〇
二—三九四一 東京女子医大看護短期大学 〇
三五七—四八〇—一 旅行、生花 (柏原町)

広 瀬 幸太郎明35
千182 調布市若葉町一—三八—一四 〇三〇〇
一五九三七 (山南町井原)

広 瀬 靖 典昭18
千108 港区白金二—四—三七—二〇都職員白金
住宅 〇四四六—一〇四二八 松沢病院 (春日町
松森)

婦 木 一 男
千252 藤沢市下土棚四六八 〇四六六—一四四
一〇—二三 洋装店自営 ゴルフ (春日町)

福 井 弘昭2
千364 北本市下石戸上六二九—一七 〇四八五
一四二—三三七五 〇三喜 〇六六三—一九四三
一 (氷上町)

藤 尾 ちゑ子明37
千165 中野区大和町四—一三〇—一九 〇三三七—
七三〇八 茶の湯、手芸 (西脇市)

藤 田 かね子明40
千181 三鷹市井の頭五—一八—二七 〇四二三—
一四四—二二七八 (春日町)

藤 田 操子
千157 世田谷区祖師谷二—一九九 〇四八二—一

九四七 (春日町)

藤田 正雄 大13 千214 川崎市多摩区三田一―一五―七―五〇六

宮〇四四―九二二―七〇一七 日本育英会 宮

二六九―四二六―一 囲碁、ゴルフ (多可郡)

藤原 岩市 明41 千180 武蔵野市境南町三―三―一―一 宮〇四

二二―三―一―七四〇九 藤原アジア研究所 宮

四三七―五六九三 ゴルフ (多可郡)

藤原 一義 千160 新宿区西新宿七―一七―三司マンション

大和企画 (山南町)

藤原 三郎 昭4 千223 横浜市港北区すみれが丘三―二―一 宮

〇四五―五九三―三五二八 有田喜一事務所

宮五八一―四九四三 ゴルフ (水上町稻穂)

藤原 弘行 大4 千103 中央区日本橋通一―四 宮二七―一―一七

八五 藤原帯地店 園芸 (山南町和田西谷)

藤平 光章 千125 葛飾区白鳥三―五―二二 宮六〇二―一〇

二五五 (水上町)

藤平 順一郎 右に同じ

藤平 卓三 千177 練馬区下石神井一―四二木内方 (水上町)

藤本 久一 千176 練馬区桜台二―二六 宮九九一―三八九

〇 (西陽市)

淵上 綱蔵 明38 千182 調布市小島町四〇七 宮〇四二四―八二

一―八九二 住友銀行 (市島町)

古川 悦子 大13 千180 武蔵野市境五―一〇―二五 宮〇四二二

一五二―一二七二 (山南町谷川)

細見 綾子 明40 千180 武蔵野市境南町五―八―七 宮〇四二二

一三一―五九五五 俳誌「風」主宰 (青垣町東芦田)

細見 穆史 昭6 3TILLINGHAM WAY LONDON N.12U.K.

(青垣町)

細見 進 千354 富士見市鶴間三六〇三―三

堀川 万次 明30 千104 中央区晴海団地四―五〇五 宮五三一―

二五二一 (柏原町中町)

本生 道生 千271 松戸市常盤平双葉町二〇―三ユニチカ松

戸第一社宅

真川 薫子 千107 港区赤坂青山南町五―五 宮四〇八―四

〇八六 (山南町)

前田 和市 昭5 千182 狛江市和泉一三〇〇―一九 宮四八九―

八二三八 永愛友商事(株)社長 宮五八五―一〇七

四〇 ゴルフ (山南町草部)

前田 照美 右に同じ

前田 和秀 昭6 千153 目黒区東山二―三―二六―四一 宮七

一九―〇五五八 自衛隊中央病院 旅行 (柏原町)

増田 憲夫 千157 世田谷区烏山町八六七 府中市立第三中

学校 (水上町)

松下 トシ 昭6 千188 田無市芝久保町三―二六―一四 宮〇四

二四―六一―五七〇〇 旅行、手芸 (山南町)

松本 一也

〒259-11 伊勢原市高森一八―二九〇 日本軽種馬登録協会 〇四二五―一七七九(柏原町上中町)

松本 雅子

右に同じ(市島町)

松本 金吉明40

〒190-0272 多摩市貝取一七〇三 〇〇四二三―七四一 三六八八 〇三立 ハイキング、謡曲(柏原町)

松本 源吉明32

〒186 杉並区高円寺南三―三四―二 〇三三一四 一八八二 台湾協会常務理事 〇二〇〇―八 一一六(柏原町)

松山 幸逸明33

〒171 豊島区西池袋四―八―八 〇九七七一―五 七四三 囲碁、俳句、読書(春日町東中)

三浦 成夫大9

〒164 中野区中野一―一四―一四 〇三六六一 四五〇九 十条製紙 〇二二―七三一(春日町多利)

三浦 巖大6

〒156 世田谷区大原一―二八―七 〇四六六一 三八二六 画家(春日町)

三浦 せつ

〒244 横浜市戸塚区汲沢町一九七七 〇〇四五 一八八一―六〇六一

三崎 復造

〒158 世田谷区玉川上野毛町二八五 〇七〇一 一三三〇(柏原町)

三宅 博

〒145 大田区南久が原二―三一―一四桜荘 〇七五八―二六三八 〇フレンドエコー(春日町棚原)

三宅 良夫昭10

〒145 大田区南久が原二―四―七久が原ホーム

水船 隆昌

ズ五〇一 〇七五四―四二七八 〇興水タイヤ商会 〇〇四四―二三三―六三二一 ゴルフ、マージャン(春日町棚原)

光山 秀子明38

〒192-02 多摩市桜ヶ丘三―一九―八 〇〇四二三 一七五―八五三八

宮城 あい大7

〒113 文京区本郷四―二―五 〇八一一―一四 五九(氷上町石生)

務川 貴世子

〒226 横浜市神奈川区六角橋二―七―八 〇四五―四八―一七六〇九 琴(山南町谷川)

村岡 卓大10

〒176 練馬区中村町二―二五 〇九九一―六八 二八(氷上町)

村上 栄宏

〒465 名古屋市中千種区猪高町大字猪子石字打越 七四 〇千代田組名古屋支店(山南町太田)

村上 末吉

〒246 横浜市瀬谷区阿久和田町四四六六阿久和田地四三四(山南町)

村上 大憲明36

〒164 中野区東中野一―二―五 〇三六九―一 八三四 〇掛桂工務店社長 〇三七一―七三〇〇(春日町中山)

村 上

〒143 大田区池上七―二―一〇 〇七五二―一 二〇三五 曹禅寺住職 囲碁、作詩(氷上町幸世)

室井 利代昭12

〒144 大田区蒲田五―一八―一 〇七三二―一四 七九八 〇スズヤ洋装店社長(青垣町遠坂)

七一一八二一七四三一 観劇 (市島町才田)

最上 次郎 明39 千182 調布市西つじヶ丘二一五一九 〇三

〇〇一五八三一 沖電機工業 〇五〇一三

一一一 (美の郡)

百木 正孝 大14 千166 杉並区堀ノ内一八三一一〇〇八 〇

三一一〇四〇三 安宅産業 〇二七一二

六四〇 ゴルフ (市島町上牧)

森下 千寿子 昭6 千177 練馬区南大泉二七九 〇九二一五七三

五 読書、釣 (市島町喜多)

森田 淳二郎 大3 千166 杉並区高円寺南三一四一六 〇三一

一一〇三三七 実業の日本事業出版部 園芸、

カメラ (多紀郡)

森田 まさ子 大7 右に同じ (氷上町成松)

森田 節子 大15 千275 習志野市津田沼一一一三八 〇四七四

一七五一六四〇九 (青垣町杉谷)

森谷 公一郎 昭13 千197 秋川市二宮二五〇 〇四二五五一

一〇二六〇 郵政省 〇二七〇一一二二一 (山

南町谷川)

八木 むつみ 千335 戸田市中町一一一一 〇四八四一四

二一一一四〇 (青垣町)

矢本 博一 千106 港区麻布十番二一四 (柏原町)

保井 寿恵子 明37 千168 杉並区高井戸東一一〇一一五 〇三三

三一一七〇五

安田 功 千154 世田谷区世田谷四一一二一八 九三証券

〇二七二一五二一一 (春日町)

安原 和巳 千154 世田谷区野沢三一八一一三 〇四二二

一三三七 (青垣町口塩奥)

安間 喜代子 千285 佐倉市遠山四〇〇一四二B一四三 〇

四七二一八七五一九一 (柏原町)

山口 隆 千177 練馬区下石神井一一二四 〇九七七一

八七一 平凡社 〇二六二一九八一 (春日町)

山口 邦江 千113 文京区駒込上富士前七三 明治乳業販売

店 (春日町)

山崎 永子 千190 立川市栄町一三三一九

山中 一朗 明42 千227 横滨市緑区美しが丘三一四六一一 〇

〇四五一九一一四四九三 タイガー計算器 〇

〇五三五一四八四八 (青垣町遠坂)

山中 大学 千144 大田区萩中三一四一一 荏原インフィル

コ (山南町)

山中 秀雄 昭13 千211 川崎市中原区北加瀬二七四 〇四四一

四一一一六五六〇 つるや産業 〇四四一

七二二一六三七一 (青垣町)

山本 清士 大13 千158 世田谷区深沢六一五一一五 〇七〇二

一四〇〇八 〇白樺 〇七〇〇一三二二一 ゴ

ルフ、盆栽 (春日町小多利)

山本 三郎 大7 千124 葛飾区宝町二一三一一六 〇六九三一

五〇〇一 宝産業 〇 囲碁、マージャン (山南

町金屋)

山本 忠 千221 横浜市神奈川区大口通り三五 〇四四五
 一四三一—一六三二六 〇四八四一
 山本 徳治明 千335 藤市南町二—三〇—一〇 〇四八四一
 四—一七—一三 読書、盆栽 (相原町)
 由良 八郎 千273 船橋市三山町六九二 〇四七四—七二
 一四三九五 サン商社(株)
 由良 喜久子 右に同じ
 由良 洋太郎 明35 千359 所沢市荒幡九四二—二二 〇四二九—
 二—三八五九二 俳句 (市島町梶原)
 余田 喜重明 千181 三鷹市新川四—二—二二 〇四二三
 一四四—四一五六 柳町研究所 〇七一四—九
 二九一 (市島町中竹田)
 余田 士郎 右に同じ
 余田 貞雄 大12 千558 大阪市住吉区帝塚山中五—一五 〇六六七
 三—七九八 丹但人社 (市島町久良部)
 余田 進昭 11 千157 世田谷区祖師ヶ谷三—一〇 〇四八
 二—六六〇三 将棋 (市島町中竹田)
 横山 幸三 明41 千133 江戸川区中央二—三四—六 〇六五五—
 三九九一 釣 (青垣町佐治)
 横山 祝 千133 江戸川区南小岩七—三三—三 〇六五七
 一六〇六六 (青垣町)
 横田 公子 千253 茅ヶ崎市東海岸北四—六一—
 千280 千葉市千城台西—三九—一四 〇四
 七—一三七—四三六一 (山南町)

吉住 重造 大5 千213 川崎市高津区宮崎五—五一—三五 〇四
 四—八六六—三六二一 〇四ノールスター社長
 〇二五三—三四九三 (春日町中山)
 吉住 政子 右に同じ
 吉田 明生 千140 品川区南品川二—一—一六 〇四七一—八
 二〇四 明友産業(株)社長 (市島町)
 渡辺 泰造 明21 千669—35 兵庫県水上郡水上町朝阪
 渡辺 金三 明40 千176 練馬区桜台二—一九 〇九九一—〇五三
 五 渡辺紙工業(株)会長 囲碁 (水上町朝阪)
 渡辺 幸子 明44 千176 右に同じ
 渡辺 勉 大11 千180 武蔵野市吉祥寺東町二—三五—一八 〇
 〇四二—二—二—四九一 (水上町朝阪)
 渡辺 久子 昭2 右に同じ (水上町石生)
 渡辺 隆男 昭3 千167 杉並区宮前四—九—二九 〇三三四—八
 三八一 〇二二玄社社長 〇二六三—一六〇五一
 四 (水上町朝阪)
 渡辺 貴美子 昭7 右に同じ (山南町下滝)
 渡辺 圭造 昭9 千192 八王子市富士見町三—二—四 〇四二二六
 一四二—四八七四 〇四パール洋菓子店社長
 〇四二五—一八一—〇八二四 (水上町朝阪)
 和田 菊江 明44 千160 新宿区西大久保—一三六五石亭マンシヨ
 ン三〇四 〇二〇三—一八八四六 (春日町)



ある国には 資源がいっぱい埋っている
ある国には 技術があるという
また ある国には……
世界は 別々に豊かさをもっている
日商岩井は そんな1つ1つの豊かさを
結びあわせることで より大きな豊かさを
実らせたいと 考えています

明日のゆたかさを考える



●提供テレビ番組 「ドキュメンタリー『20世紀の映像』」 毎週日曜日放映 夜10:30-11:00 TBS・MBS、他13局ネット

古典医学・脈診研究

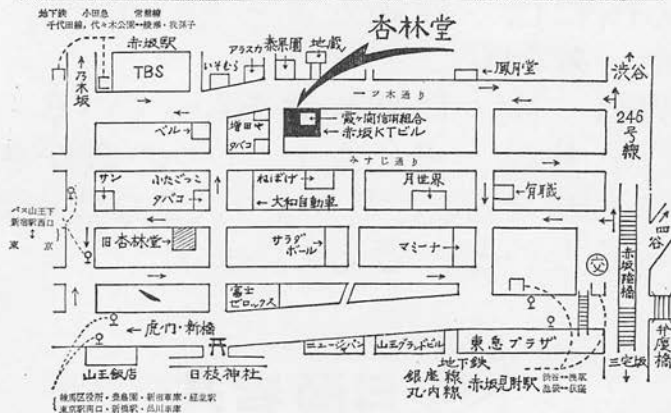
鍼専門治療 杏林堂

小川 晴 通

東京都港区赤坂3-6-8

電話 (583) 1553 番

杏林堂診療室



診療時間の受付は前もって電話にてお約束いたします

建築材料販売工事

建設大臣登録(般) 48 第1834号

中央建材工業株式会社

取締役会長 荻 野 英 夫

取締役
東京営業所長 荻 野 武

本 社 名古屋市千種区若水町 3-26
電話 052 (761) 6181番(代表)

東京営業所 東京都中央区銀座 7 丁目10-5
電話 03 (571) 5229番 (代表)

大阪営業所 大阪市西区靱本町 3 丁目48
電話 06 (443) 6665番

仙台営業所 仙台市宮町 1 丁目 1-22
電話 0222 (61) 8133番

1級建築士事務所

桂建築総合研究所

ビル建築の設計・監理
事務所建築・賃貸ビル・商業ビル・都
市再開発にともなう新築ビル・アパー
ト・マンション・住宅…等の新築ビル
経済性を尊重した優美な設計

株式会社 桂 工 務 店

店舗の内装設計・施工
住宅の新築・改造・増設施工・都市美
観工事にともなう街路・オーニング・
看板・電飾看板等の設計・施工
システム化された近代経営

株式会社 商店建築社

商業建築・建築関係図書出版・月刊誌
商店建築・TAU発行・名作シリーズ・
単行本写真シリーズ…等多数発行

春日町中山出身 村上末吉

住所 東京都中野区東中野1-2-5 TEL 369-1834

☆フランス菓子☆スイス菓子☆ドイツ菓子☆

BASEL

●洋菓子・喫茶・食事

国立駅南口店 (銀座通り)

Tel 0425-75-9791

●洋菓子・コーヒー

八王子駅北口店

Tel 0426-44-3583

●洋菓子・喫茶

京王八王子駅前店

Tel 0426-42-8424

●洋菓子・工場

豊田駅前通り店

Tel 0425-81-0824

●ワイン・ビアレストラノ

八王子三崎町店

Tel 0426-22-5528

●洋菓子・アイスクリーム工場

奥多摩バイパス店

Tel 0425-44-3911

●洋菓子

多摩川店 (読売ランド下)

Tel 044-944-2214

有限会社バーゼル洋菓子店 社長渡辺圭造

衆議院議員

有 田 喜 一

衆議院第一議員会館

電話(五二)五一一一(代) 内線三六二番

直通(五八一) 四九四三番

東京都世田谷区成城四ノ一ノ一五

電話(四八三) 一一二〇九番

兵庫県氷上郡氷上町谷村

電話〇七九五八(二)〇〇〇八番

日本メキシコ協会会長
日本バレーボール協会会長
アジアバレーボール連盟名誉会長
国際バレーボール連盟副会長
日商岩井株式会社相談役

西 川 政 一

(住) 東京都杉並区善福寺二ノ三五ノ一六

電話(三九〇) 一三一六番

(寓) 静岡県伊豆高原

電話 〇五五七一五三一二五六〇番

藤原アジア研究所所長

藤 原 岩 市

東京都港区浜松町 1—5—7 山の手ビル 2F

電話 03 (437) 5693～4 番

調布市社会福祉協議会理事

調布市豊かな老後のための市民会議実行委員
老人問題研究所

木 村 つ た 江

東京都調布市東つつじヶ丘 2—39—5

電話 東京 (300) 1505番

電子器機部品専門商社

株 式 会 社 三 誠

取締役社長 足 立 誠 一

東京都千代田区外神田 3—2—13

電 話 (255) 1 2 5 1 番 (代表)

綜 合 建 設 業

東京都知事登録第 3 号

春 日 建 設 株 式 会 社

代表取締役 伴 仲 信 次
(春日部出身)

東京都千代田区飯田橋 2 丁目 9 番 3 号

電 話 東 京 (264) 4 0 1 1 番 (代表)

株式会社 つるや洋装店

株式会社 東逗子駅前ビル

東海産商株式会社

代表取締役 小 谷 正 己

逗子市逗子 1-6-4

電話 0468. 71. 3075

71. 6449

婦人生活目黒学園

(目黒ターミナルビル内)

日本テレビ総合タレント学院

日本舞踊教授

西 崎 祥

東京都品川区小山四の九の三

電話 (七七一) 八六〇三

祝賀会御宴会などの芸能承ります

郷友会のお子さんたちもどうぞ!

株式会社 近藤写真製版所

取締役会長 近 藤 林 蔵

取締役社長 近 藤 勇 夫

(国領出身)

東京都新宿区下宮比町8番地

電 話 (260) 6 2 8 1 番 (代表)

デラックスムードの

ホテル 春 日

京成谷津駅前 (谷津遊園入口)

八 弘 産 業 株 式 会 社

代表取締役 長 富 千 代 一

千葉県習志野市谷津町 2 丁目332-3号

電話 0 4 7 4 (75) 7 4 7 1 番

総合建築

設計  施工

株式会社 長富工務店

代表取締役 長富千代一（大路出身）

本社 東京都荒川区南千住5-9-8 電話(802) 3721~4番

東京支店 東京都足立区青井町2-24-7 電話(840) 4484~7番

船橋支店 船橋市海神3-16-1 電話(0474) (31) 7178(代)

図書出版  株式会社 二玄社 ★図書目録呈

代表取締役社長 渡辺隆男（氷上町朝坂出身）

書跡名品叢刊 全200冊

法帖の決定版 各850~1800円

複製・東洋の名筆既刊24点

良寛ほか 各3500~30000円

古名硯 全5巻

原色版豪華図録 総150000円

名跡六体大字典・書源

藤原鶴来編 13000円

日本金石図録

神田喜一郎監修 18000円

書道技法講座 既刊30冊

青山杉雨ほか編 各1300円

書道講座 全8巻

西川寧編 各1500円

新羅・高麗の仏像

中吉 功著 5000円

中国美術の研究

田中豊蔵著 2200円

東洋学文献叢説

神田喜一郎著 2300円

中国の印章

羅福頤著・安藤更生訳 1500円

月刊雑誌 **CAR GRAPHIC**

大型豪華版 1日発売・600円

世界の自動車 全60冊

世界初の自動車全集 各600円

世界名車全集 全8巻

レコード付原色版 各6000円

東京都千代田区神田神保町2-42/電話 東京263-6051~6054

明治生命保険相互会社
本社東京直屬

足 立 正

東京都千代田区丸の内二丁目一番一号
電話(二八三)八一七一〜五番 直通

三菱商事株式会社

常務取締役
非鉄金屬本部長

足 立 徹

千代田区丸の内二一六—三

山 中 一 朗

227横浜市緑区美しが丘三一四六一—
電話(〇四五)九一一—四四九三番

植 木 紙 工 所

代 表 者 植 木 一 夫

東京都文京区白山三丁目一〜十三
電話(八一二)八五七三番

荻 野 定 一 郎

事務所

東京都千代田区丸の内二ノ二

(丸ビル六階六二五区)

電話(二一一)七〇六一〜二番

自 宅

鎌倉市御成町十七〜十四
電話〇四六七—三二一六七四二番

木徳証券株式会社

畑 秀 夫

本社 東京都中央区日本橋兜町一丁目八番地
電話東京(六六)一四八一(代表)〜一四八九番

日本学士院会員
東京理科大学学長

理学博士

小谷正雄

東京都新宿区神楽坂一ノ三
電話東京(二六〇)四二七一代表
東京都大田区山王三三六ノ四
電話東京(七七二)六六五二
自宅

景山正吾

156世田谷区桜一―二〇―七
電話 〇三一四二九―五八八〇

高見齒科

高見幸男

〒176 練馬区錦町二―八―三
電話 九〇〇―三八五六番

須原清

東京都中野区南台五の三〇の六
電話(三三二)一六二一 番

高見産婦人科

医学博士
高見嘉都司

東京都板橋区熊野町四〇番地
電話(九五六)〇六〇〇 番

谷垣正雄

東京都杉並区高井戸西一―二四―一七
電話(三三三)六一六〇 番

株式会社興水タイヤ商会

經理
部長

三宅良夫

川崎市川崎区元木一丁目一番一号

電話 〇四四(233) 六三二一番(代表)
二八八四・二八六一番

日本ビクター株式会社

専務取締役

西垣秀正

東京都中央区日本橋本町四丁目一番地ノ一
電話東京(〇三三) 七八二一番(大代表)

木徳証券株式会社

投資顧問

能勢次郎

東京都中央区日本橋兜町一ノ八
電話東京(〇六六) 二四八(代表)
千葉市穴川二ノ三ノ六
自宅 電話〇四七二(五一) 三七八二番

曹禪寺住職

村上大憲

東京都大田区池上七丁目二番十号
電話 〇三二七五一・二〇三五番

横山産業株式会社

取締役社長

横山幸三

東京都江戸川区中央二一三四一六
電話(六五五) 三九九一 代表

松山幸逸

(竹水)

東京都豊島区西池袋四一八一八
電話九七一・一五七四三番

美味無比 木の实酒

栗の三年酒

◆ 丹波焼壺詰
◆ 徳用びん詰

(1、
35 50
00 00
00 00
ml ml)

小鼓の西山酒造場

氷上郡市島町中竹田
電話(〇七五)⑥〇三三二代

くり

さん

ねん

しゅ

この木の实酒「小鼓くりの三年酒」は、
純粹の丹波産栗の实、梅の実など山野の
木の实を原料として秘醸したもので、常
用すれば胃腸を整え健康と美容と活力を
増進します。

ストリートでお飲みいただきますと、さ
わやかな梅の香りがひろがり、あと口に
はコクのある栗の味が残ります。

お正月のお屠蘇には、縁起のよい
「小鼓栗の三年酒」をお用い下さい
キット好評です。

あとがき

▲会誌第七号をお届けします。この号には郷里の話題二篇を巻頭に飾りました。興味深い、会誌にふさわしい内容のものとお負しています。寄稿下さった上山・畑両先輩に厚く御礼申し上げます。寄稿次第です。

▲その他、誌面には国の内外で活躍されている会員の勇姿が伺える文章がたくさん寄せられています。われわれの仲間が各方面で奮闘されているのを知ると、他人ごととは思えず、なお一層のご発展を祈らずにおられません。

▲こうした会誌や会報の「あとがき」を見ると、ほとんどの「あとがき」に「会費を納めて下さい」と記してあります。本誌にも他の例にもれず書かざるを得ない事情をお察し願います。ご承知のごとく制作費の値上りや郵便料金の値上げなど、家庭生活はもちろんですが、会の運営にもひびいております。私たちは会の運営は会員の協力によって育ててゆくのが建て前であろうと考えております。一部の方々の賛助や寄附に頼って運営してい

ては、やがてはゆき詰らざるを得ないと思います。従って一部の方々にはできる限りご無理をお願いしたくないのですが、現状はそれを許しませんでした。賛助広告なり、寄附金を頂いたりしておりますが、会員の各位におかれてもどうか、この会が健やかに育つための栄養費として「会費」はご協力下さるようお願いいたします。

▲昨年の役員会以来足立会長より「会員中の長寿者に対しお祝いをしようじゃないか」と提案されて、いよいよ実現の運びとなりました。結構な話でぜひ喜んで頂けるように、皆さんからもお知恵を拝借したいものです。

ご投稿を歓迎します

随想・随感、身辺雑記、ご意見やご提案、ニュース、お便り写真など、どんなものでも結構です。郷友会の交流を暖めるために、ぜひお気軽に皆様のご投稿を、お待ちしております。次号の発行は五二年四月初旬の予定。締切りは本年十二月二十〇日です。

(編集委員)

▲さて次号の本誌の原稿メ切りは本年十二月末です。どしどし御送り下さい。お待ちしております。

▲女流俳人細見綾子女士受賞を祝して、壇上に受賞の笑顔わが友は
むかしは捨女 いま綾子あり (竹水)

山ざる 第七号

昭和五一年四月二〇日印刷
昭和五一年四月二五日発行

編集委員 松山幸逸 足立 正

萩野 武 常岡幹彦

渡辺隆男

発行所

関東氷上郷友会

東京都千代田区飯田橋二丁目九番三号

春日建設株式会社内 〒102

TEL東京〇三(264)四〇一一番(代)

振替貯金番号 東京 一三三三三〇番

制作 株式会社 二文社

画期的！経費処分の出来る 大型経営者保険誕生

わずかな掛金で **500万円** から **3億円** まで

日本で始めて **A I U** と **大同生命** が提携

- 非常に安い掛金で、しかも全額経費処分が出来ます。
- 一度の診査で、10年契約。65才まで加入出来ます。
- 掛捨てですから通貨不安、物価変動に強い新時代の保険です。
- 経営者に病気・災害・天災の事故のあった時、企業をがっちり守ります。
- その家族にも高額の退職慰労金が償還されます。
- 役員の任期も考えると、この保険は理想的な保険です。

一例D型

死亡	事故による時		5000万円	年 令	保険料 (D型)
	病気による時		2500万円		
休業補償	事 故	入院の時	1日につき 7500円	35才	月払 17,137円
		入院しない時	〃 2500円	40才	〃 19,637円
	病気入院 (20日以上)		〃 2500円	45才	〃 23,887円
	傷害医療費50万円迄 病気手術 5万円			50才	〃 30,387円
傷害の程度により病気廃疾の保険金					

ご説明に伺いました際は粗品を差し送らせて戴きます。

A I U 総合代理店
大同生命代理店

永愛友商事(株)

〒107 東京都港区赤坂 3-1-2 A I U 赤坂ビル
TEL 03 (585) 0740代 代表者 前田和市

GRUE BONNE

高級婦人服製造卸 つるや産業株式会社

取締役社長 足立三治

東京店 品川区西五反田 7-22-17番地
東京卸売りセンター12階
電話 (03) 494局3285~7番

本社 川崎市中原区新丸子 701番地
電話 (044) 722局6371 (代表)
社長室直通 722局3212

創業 昭和 9 年

主なる取引先

(株)東急百貨店 (本店, 東横店, 日本橋店)
(株)伊勢丹(本店, 立川店, 八王子店, 吉祥寺店)
(株)大丸(東京店, 町田店, 大阪店, 神戸店, 京都店)
(株)西武百貨店(本店, 渋谷店) (株)松屋(本店, 横浜店)
(株)野沢屋 (株)小美屋 (株)丸井 (株)横浜岡田屋
(株)横浜高島屋 (株)川崎さいかや (株)阪急百貨店